

飯 能 市 郷 土 館 館 報

郷土館のプロフィール

Profile 2009

活動報告書

第7号

平成21年度



飯能市郷土館

あいさつ

飯能市郷土館館報(活動報告書)第7号をお届けします。

この館報は、当館の活動をその内容だけでなく、事業評価を盛り込みながら記録としてまとめたもので、自発的な情報公開を目的として発行するものです。

活動成果をスピーディに公表し、一年間の事業内容を振り返り、次年度の事業展開に役立てるなど、積極的な活用をするために毎年発行しています。今回収録したのは、平成21年度の事業です。

この年は、念願の『名栗の歴史』下巻を刊行して名栗村史本編4巻が全て揃い、名栗村からの継続事業が結実した年でもあります。

秋には、開館以来初めて本格的に考古資料をテーマとした、特別展「縄文時代の飯能」を開催し、入館者、市民の皆さまから好評を博したところでした。

当館と市民の皆さま方との協働の事業に目を向けますと、小学3年生見学対応で主体的な役割を担っている市民学芸員、会員の方々が、変わりゆく飯能を着実に記録し、展示もおこなっている定点撮影プロジェクトが挙げられます。また、商店街の活性化を目的に行なわれる「雛飾りお宝展in飯能」にあわせたミニ展示「ひなまつり」の実施も、協働事業の一つとして定着してまいりました。

このように、当館は市民が集い情報を交換する場に、また、地域の情報が集まり飯能ならではのものを発信する場になるよう、努力して参ります。

市民の皆様には今後とも、当館の活動へのご参加と、ご支援ご協力を切にお願いいたします。

平成23年3月

飯能市郷土館
館長 新井 孝治

目 次

あいさつ	1
目 次	2
沿 革	3

第1章 施設

建物平面図	6
面積表	7
常設展示の概要	8

第2章 事業

飯能市郷土館学芸員の仕事	10
平成21年度の事業	12
展示	
（収藏品展・特別展）	13
（その他の展示）	19
講座・学習会	23
交流	26
博学連携	32
資料・施設の利用	37
レファレンスの対応・講師派遣	42
収集	44
整理・保存	45
調査・研究	47
刊行物	48
広報	49
名栗村史編さん事業	50
郷土館協議会	51
博物館実習	52

第3章 各種データ

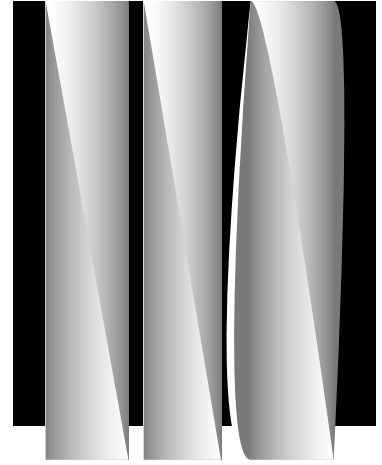
入館者数	54
歳出予算	55
図書資料寄贈機関	56
職員	57
飯能市郷土館条例・施行規則	58

表紙：「飯能市郷土館」ペン・水彩 1990年 小島喜八郎画

沿革

昭和46年 3月	「飯能市郷土館建設基金の設置、管理及び処分に関する条例」が公布され、(株)丸広百貨店より寄付された1千200万円が予算化される。
昭和50年 4月	飯能市総合振興計画の基本構想に郷土館建設がうたわれる。
昭和61年 3月	(株)丸広百貨店より寄付された観光施設整備基金約2億1千万円を郷土館建設基金に繰り入れる。
昭和61年 6月	飯能市文化財保護審議委員会へ、郷土館建設基本構想・基本計画策定について諮問する。
昭和62年 3月	飯能市文化財保護審議委員会から基本構想・基本計画が答申される。
昭和62年 7月	(株)平安設計による建築設計を開始する。
昭和62年10月	(株)タイムアートデザインによる展示基本設計を開始する。
昭和63年 3月	市川・前久保建設共同企業体による建築工事に着工する。
平成元年 4月	社会教育課内に郷土館準備係(係長1、係員1)が配置される。
平成元年 6月	(株)タイムアートデザインによる展示工事に着工する。
平成元年12月	飯能市郷土館条例が制定される。
平成2年 4月	飯能市郷土館友の会が結成される。
平成2年 4月	飯能市郷土館が開館する。 (常勤職員は館長1、学芸員1、主事補1)
平成2年 4月	開館記念特別展「飯能の国指定重要文化財」「わたしの宝物―思い出に残る品々―」開催。
平成2年 8月	特別展「戦時中の暮らし」開催。
平成2年 8月	夏休み子ども歴史教室開催。(以後、毎年開催)
平成2年10月	特別展「飯能文化萌ゆ」開催。
平成2年11月	古文書講座「むかしの飯能を知ろう」開催。この講座の受講生を中心に「古文書同好会」が結成され自主活動を続ける。
平成3年 2月	特別展「ひなまつり」開催。
平成3年 4月	特別展「能仁寺と黒田氏」開催。
平成3年 7月	友の会主催の郷土館ギャラリー「飯能の陶芸家たち」開催。
平成3年10月	特別展「絹は語る」開催。
平成4年 4月	特別展「写真にみる幕末・明治」開催。
平成4年 8月	埋蔵文化財出土品展「掘り起こせ！古代からのメッセージ」を開催。(生涯学習課と共催。成6年までは毎年開催、その後は隔年で開催)
平成4年10月	特別展「絵図からの伝言」開催。この特別展より企画委員会を組織し、展示構成を検討することとなる。
平成5年 1月	友の会主催による「まゆ玉づくり」開催。以後、毎年開催する。
平成5年 4月	特別展「商―飯能の広告展―」開催。
平成5年 6月	開館以来の入館者数が10万人を突破。
平成5年10月	特別展「碑―連帯のエネルギー―」開催。
平成6年 3月	『飯能の昭和史年表』発行。
平成6年 4月	開館5周年記念特別展「幕末・明治の幻陶 飯能焼」開催。この展示で、初めて特別展の図録をつくる。
平成6年10月	特別展「ジャパンマイセン―瀬戸の磁器人形―」開催。この展示で、1日平均入館者数最多の205.6人を記録する。(開館記念特別展は除く)
平成7年 4月	特別展「いろどりとにぎわいのとき―飯能の民俗芸能・屋台囃子と獅子舞―」開催。
平成7年 7月	常勤職員が4人(館長、学芸員2、主事補1)となる。
平成7年10月	特別展「飯能の村医者―幕末・明治の医療―」開催。
平成8年 4月	特別展「猫・ねずみ―絵ぞうし展―」開催。
平成8年 5月	開館以来の入館者数が20万人を突破。
平成8年 8月	常設展示等企画委員会発足。(任期は平成10年3月まで)
平成8年10月	特別展「飯能の刀匠―小沢正壽を中心として―」開催。会期中に展示図録が完売する。

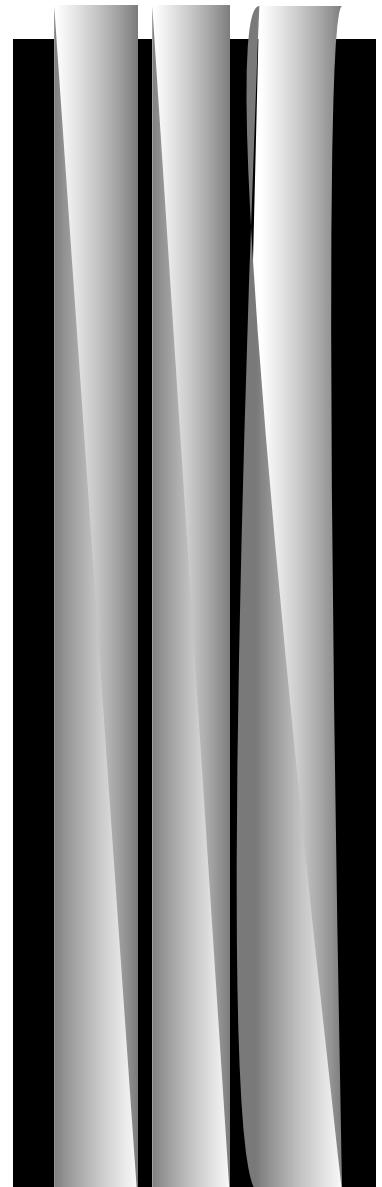
平成9年3月	『飯能市郷土館館報』第1号発行。
平成9年3月	特別展「明治のハイカラ美人—手彩色絵葉書—」開催。
平成9年10月	特別展「祈りのメッセージ—飯能の絵馬—」開催。
平成10年4月	特別展「高麗の里の独楽展—昔遊びのすすめ—」開催。
平成10年4月	「やさしい古文書講座」開催。この講座の受講生を中心に「古文書勉強会」が結成され自主活動を続ける。
平成10年8月	恒例の「夏休み子ども歴史教室」を「夏休み親子歴史教室」と改称して実施。
平成10年9月	「中学生社会科研究展」開催。(以後毎年開催)
平成10年10月	特別展「時の記憶—飯能の写真展—」開催。
平成10年11月	市民との交流事業「定点撮影プロジェクト」開始。
平成10年12月	開館以来の入館者数が30万人を突破。
平成11年3月	収藏品展開催。(これ以降、毎年春に収藏品展を開催することとする)
平成11年10月	開館10周年記念特別展「わたしの宝物展」開催。
平成12年1月	第1期市民学芸員養成講座開始。
平成12年2月	特別展「飯能のスポーツ史」開催。
平成12年3月	博物館法に基づく登録博物館となる。
平成12年10月	特別展「飯能、戦後の暮らし」開催。
平成13年2月	第2期市民学芸員養成講座開始。
平成13年3月	『研究紀要』第1号発行。
平成13年5月	「郷土館だより」創刊号発行。
平成13年9月	これまでの「中学生社会科研究展」に小学生も対象に加え、「小中学校社会科研究展」として開催。
平成13年10月	特別展「黎明のとき—飯能焼・原窯からの発信—」開催。この特別展より夜間開館を実施する。
平成14年10月	特別展「うちおり—織物に込められた想い—」開催。
平成14年10月	郷土館ホームページをインターネット上に公開開始する。
平成15年3月	『収蔵資料目録』発行。
平成15年7月	市制施行50周年記念特別事業として特別展「写真でたどる飯能市の50年」開催。
平成15年8月	開館以来の入館者数が40万人を突破。
平成15年10月	特別展「中山氏と飯能・高萩—時と街を結んだ武士の系譜—」開催。
平成16年2月	第3期市民学芸員養成講座開始。
平成16年10月	入間川4市1村合同企画展「筏師が見た入間川—その流域の今昔—」開催。
平成17年1月	名栗村との合併にともない、名栗村史編さん事業を郷土館が引き継ぐ。
平成17年1月	常勤職員が5人(館長、学芸員2、主査2)となる。
平成17年10月	特別展「飯能の水力発電—吾野名栗に電気がひけた日—」開催。
平成19年3月	郷土館所蔵の「飯能の西川材関係用具」が埼玉県有形民俗文化財に指定される。
平成19年4月	常勤職員5人のうち館長以外の職員が全て学芸員となる。
平成19年4月	開館以来の入館者が50万人を突破する。
平成19年4月	郷土館ホームページを全面的に更新する。
平成19年4月	第4期市民学芸員養成講座開始。
平成19年6月	市民のコレクションを展示する第1回「マイ・コレ。」(マイ・コレクション展)を開催する。(以後、毎年2回開催)
平成19年10月	特別展「西川林業の道具—森林文化の遺産—」開催。
平成20年3月	『名栗の民俗』(下巻)、『名栗の歴史』(上巻)刊行。
平成20年4月	常勤職員が4人(館長、学芸員3)となる。
平成20年10月	特別展「名栗の歴史—森林とともに歩んだ文化を探る—」開催。
平成21年10月	特別展「縄文時代の飯能—原始の森林に生きた人々—」開催。
平成22年3月	『名栗の歴史(下)』を刊行し、名栗村史編さん事業が終了する。



第 1 章

..... Chapter 1

【 施 設 】



建物平面図

< 1階 >

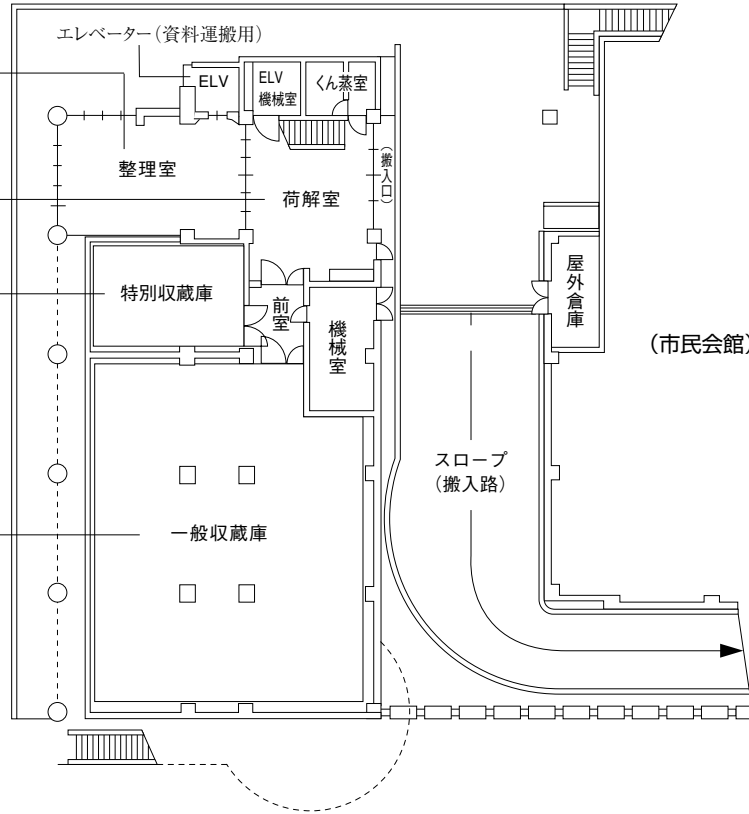
収蔵資料の台帳やカードを作成しその情報を整理する部屋。

搬入された資料の梱包を解く部屋。年1回行われる資料の被覆燻蒸もここで行われる。

古文書・典籍など約40,000点のほか貴重な資料が保管されている。

民具約4,950点、絵画約250点などを収蔵している。

(飯能河原)



< 2階 >

※< R階 > 階段をあがると展望台があり、龍涯山、前ヶ貫丘陵など遠くまで見渡すことができる。

(駐車場)

主に資料の調査・研究を行う部屋。近隣市町村で刊行した図書類もある。

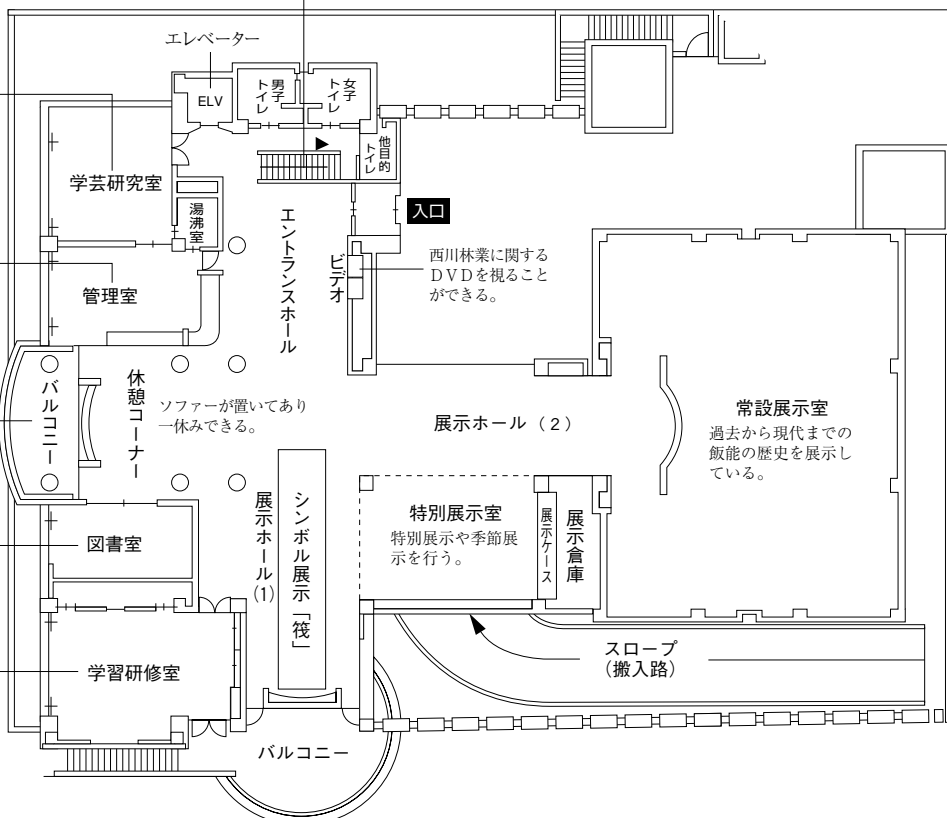
職員がいる部屋。館内の照明や空調などの管理及び刊行物の販売、来館者の質問や電話によるレファレンスに対応する。

ここからの眺めは最高！飯能河原が一望できる。

飯能の歴史や文化、博物館に関連する図書が配架されている。

講座や学習会を実施するほか、定点撮影プロジェクトや市民学芸員の会合を行う。

(飯能河原)



(市民会館)

面積表

〈各階床面積一覧表〉

(単位：㎡)

室名	面積	室名	面積
1 階	497.458	休憩コーナー	41.520
一般収蔵庫	256.094	学習研修室	62.779
機械室	24.375	倉庫	10.464
前室	11.295	図書室	28.101
特別収蔵庫	47.205	管理室	38.558
荷解室	55.875	風除室	7.360
整理室	58.353	湯沸室	7.848
燻蒸室	11.424	学芸研究室	44.050
エレベーター機械室	9.405	他目的トイレ	5.266
エレベーター	7.442	女子トイレ	10.468
屋外倉庫	15.990	男子トイレ	10.361
2 階	959.774	エレベーター	7.500
常設展示室	273.965	R 階	40.040
特別展示室	59.850	階段	15.846
展示倉庫	20.675	階段ホール	15.944
展示ホール (1)	139.750	エレベーター	8.250
展示ホール (2)	88.128		
エントランスホール	103.131	合計	1,497.272

〈用途別面積一覧表〉

用途	内 訳	面積 (㎡)	割合 (%)
教育普及	展示 (常設展示室・特別展示室・展示ホール)	561.693	37.5
	その他 (学習研修室)	62.779	4.2
収集・保存	(一般収蔵庫・特別収蔵庫・前室・燻蒸室)	326.018	21.8
調査・研究	(学芸研究室・図書室・整理室)	130.504	8.7
管 理	(管理室)	38.558	2.6
そ の 他		377.72	25.2

敷地面積 3,626.12㎡ 建築面積 1,165.999㎡

施設修繕

- ・量水器口径変更修繕(量水器の口径を75ミリから50ミリへ変更) (4月)
- ・トイレ修繕(男子・女子・多目的トイレ便器を和式から洋式へ改修) (5～7月)
- ・空調機修繕(学習研修室空調機クランクケースヒーターの交換) (8月)
- ・非常放送設備修繕(基板・予備電源の交換) (9月)
- ・高圧気中開閉器取替修繕(郷土館駐車場北西角にある電信柱上の高圧気中開閉器の取替)
(平成21年12月～平成22年1月)
- ・浄化槽内排水管(ビニール管及び架台・支持金物)の交換 (3月)

常設展示の概要

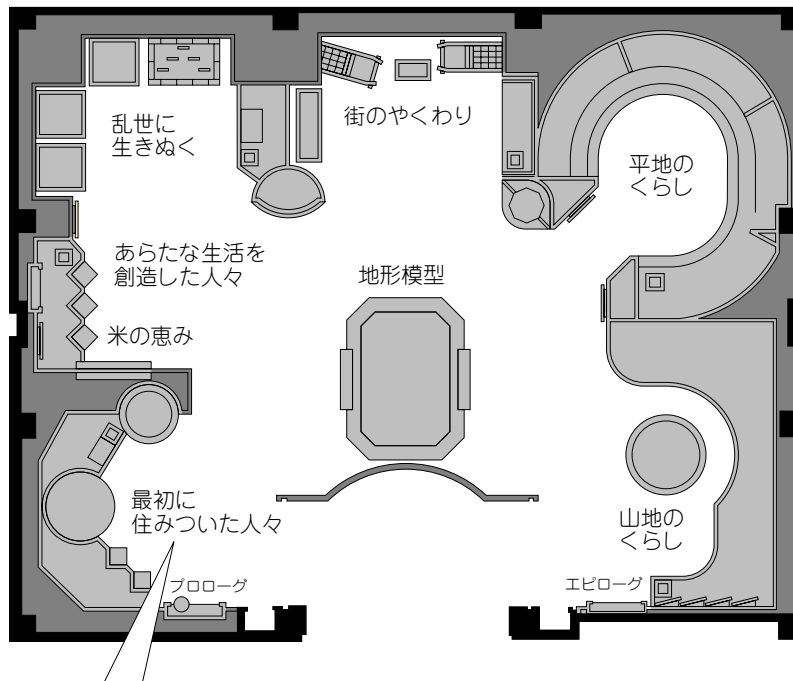
常設展示には、展示ホール(1)のシンボル展示「筏」と、常設展示室の展示がある。

常設展示室は、下図のように地形模型を中心とした9つのテーマから構成され、飯能の歴史が旧石器時代から現代まで時代を追ってわかるようになっている。

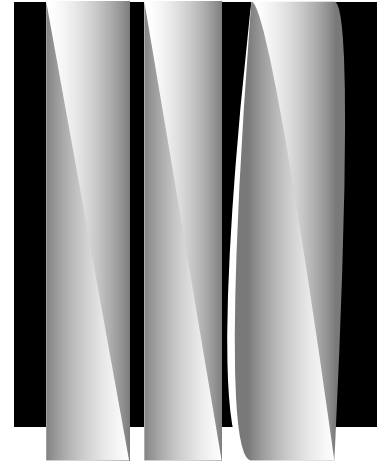
なお、常設展示の展示替えについては、平成8・9年度に学識経験者による常設展示等企画委員会を立ち上げ、開館10周年にあたる平成11年度の実施を目指して運営も含めた検討を行ったことがあった。この委員会からは報告書が出されたが、財政難などの理由からそれを実現することができず現在に至っている。

ただし、資料保存の観点から、あるいは研究成果を反映させるために、部分的な展示替えはこれまでも行ってきたところである。

なお、平成21年度は展示資料等の変更はなかった。



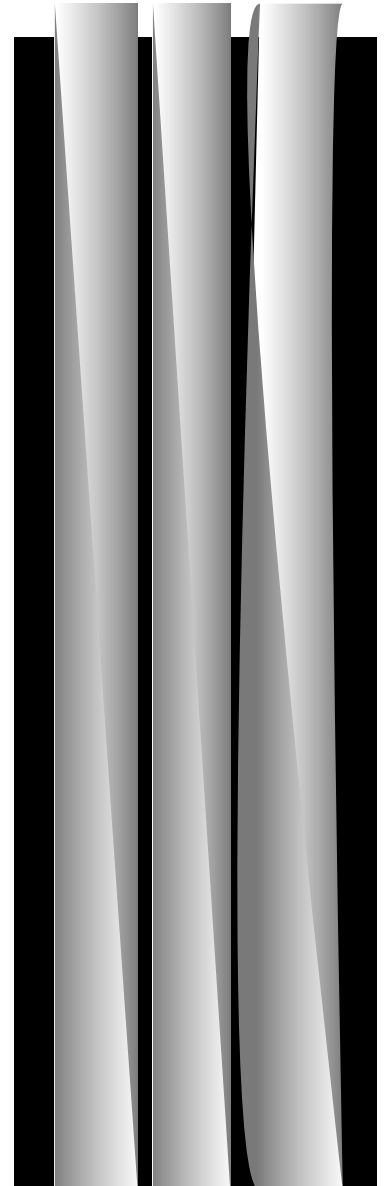
「最初に住みついた人々」



第 2 章

..... Chapter 2

【 事 業 】



飯能市郷土館学芸員の仕事 — 学芸員Mの一年 —

○はじめに

博物館の事業分野には大きく分けて、展示、教育普及、収集・保存、調査・研究、館の運営・管理の5つがある。館報第6号では、これらの活動に学芸員が従事する割合を示し、A学芸員の平成12年度と20年度での仕事内容(内訳)の変化を見た。

その結果、学芸員が持つ主観的なイメージとしては、飯能市郷土館の事業分野のうち、教育普及の比率が突出して高く、郷土館の活動の主体として認識されていること、そして、それらの活動が滞りなく行なわれるための運営管理も比率が高く、相応の注意が払われていることが明らかとなった。

また、A学芸員の仕事内容(内訳)の比較からは、平成12年、20年ともに教育普及の割合が高く、一貫して教育普及事業が重点的な仕事として遂行されている一方、平成20年度には運営管理と展示の比率が減少して整理が大きく伸び、A学芸員が資料整理に時間と労力を投入出来るようになったと、認識していたことがわかった。

以上のことを踏まえた上で、ここではもう一人の学芸員(「学芸員M」とする)の1年間の仕事を、郷土館の「平成21年度 日誌」(以下「日誌」)に記載された内容及び、学芸員Mが自らの手帳に記したメモ(以下「日記」)を元に復元し、具体的に「何を」、「いつ」やっているか見ることにする。

○上半期

11頁の表は、5つの事業分野毎に、日誌・日記の記述を元にして作業期間を帯で示したものである。

上半期のところを見ると、4月から9月まで継続的に特別展の仕事をしていることが分かる。これは、学芸員Mが平成21年度特別展の担当であったためである。また、4月から6月中旬まで、やはり継続して調査研究に従事しているが、これは特別展のための調査研究である。これら特別展の準備に関わる仕事は、前年度の12月頃から本格的に始められた。

その一方で、所々に見られるのが、教育普及分野での各仕事である。具体的には、交流事業(市民団体の方や市民学芸員の方々との打ち合わせ)、講座学習会(夏休み子ども歴史教室の準備・運営)、教育普及(見学者への展示解説など)、博学連携(出張授業)が挙げられる。

また、収集・保存分野で、上半期合計7回の仕事が入っている。だいたい月に1回のペースである。これは市民の方々から資料寄贈の申し出があった際

に行なう資料調査や、資料受領である(学芸員Mは民俗資料担当)。

○下半期

下半期では、10月から12月下旬までの展示分野における特別展の仕事が目玉を引く。特別展は10月中旬から始まるため、それまでは展示設営、図録の刊行に力が傾注され、特別展開催以降は、関連事業である講座や体験教室の準備・運営に追われる。

同時併行で、10月下旬から11月上旬までは次年度の予算編成を行なわなくてはならない。これは地方自治体の中で仕事をしている以上、避けて通れない作業である。

加えて、この年度、学芸員Mは研究紀要の編集・発行を担当すると共に、自身の研究成果を掲載することになっていた。学芸員Mは、研究紀要の執筆テーマを平成20年度には決めており、余裕のある時に関係する文献や資料(史料)を集めていたが、作業が本格化したのは予算編成作業終了後である。

仕事の進め方として決して褒められたあり方ではない。しかしながら、このように研究紀要を刊行するなどの機会があることにより、調査・研究のための時間を無理にでも日常業務の中に作り出そうという意識が働くのも事実である。

この他には、教育・普及分野(博学連携)で1月中旬から2月上旬にかけ、土日月曜日を除くほぼ毎日(合計11日)、午前中に小学3年生見学対応を行ない、収集・保存分野で、寄贈資料の調査に向いている。下半期合計で12回、一月につき2回のペースである。

○まとめ

以上、学芸員Mの一年を追ってみた。基本的には、特別展中心の一年だったと言え、展示分野一つまり情報の発信—における仕事が多いのは当然と言える。また、教育普及分野、収集・保存分野の仕事は、それを要請する、あるいは申し出てくれる人がいるからこそその、いわば生身の人間相手の仕事である。そのような人々を無視した博物館は、一体誰のための博物館か? 故に、呼ばれたら行く。

その一方で学芸員Mが大いに反省するのは、収集資料の整理と、研究に充てた時間の少なさである。資料整理・研究は、情報を発信するための基礎的作業であり、この分野の仕事が十分に出来て、初めて発信される情報も価値あるものとなろう。それを忘れまい、と強く思うのだが・・・。

分野	仕事内容	4月			5月			6月			7月			8月			9月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
展示	特別展	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	展示			■						■						■			■
教育・普及	交流事業			■						■									
	講座学習会												■			■			
	教育普及	■	■				■												
	博学連携						■			■			■						■
	史(資)料閲覧対応												■						
	資料貸出・返却																		
収集・保存	収集		■	■		■				■			■						■
	保存																		
調査・研究	調査研究	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	埼玉協、埼玉博連など																		
運営・管理	郷土館運営	■																	
	一般事務									■									
	郷土館管理												■						

分野	仕事内容	10月			11月			12月			1月			2月			3月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
展示	特別展	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■						
	展示									■			■			■			■
教育・普及	交流事業		■	■															
	講座学習会												■						
	教育普及															■			
	博学連携			■			■						■			■			
	史(資)料閲覧対応																		
	資料貸出・返却						■												
収集・保存	収集			■						■			■			■			■
	保存																		
調査・研究	調査研究				■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	埼玉協、埼玉博連など																		
運営・管理	郷土館運営									■									■
	一般事務	■			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	郷土館管理																		■

凡例： ■ 日記・日誌に記述のあるもの
■ 特に日記・日誌に記述はないが、継続的に行われたもの

◆ 展 示

- ・特別展…秋の特別展及び関連事業に関わるすべての仕事。
- ・展示…収蔵品展など特別展以外の展示に関わる仕事。

→13~22頁

◆ 収集・保存

- ・収集…市民の方からの民俗資料寄贈申し出に伴う資料調査・収集。
- ・保存…資料燻蒸に関する作業。

→44~46頁

◆ 教育・普及

- ・交流事業…市民団体や市民学芸員との打ち合わせ・会合。
- ・講座学習会…夏休み子ども歴史教室の補佐やまゆ玉づくり。
- ・教育普及…見学者への展示解説。
- ・博学連携…小学校へ出張授業・小学3年生見学対応。
- ・史(資)料閲覧対応…史(資)料閲覧への対応。
- ・資料貸出・返却…小学校などへの民俗資料の貸出。

→23~43頁

◆ 調査・研究

- ・調査研究…特別展開催に向けての調査及び、研究紀要第5号掲載原稿の執筆。
- ・埼玉協・埼玉博連…他の博物館における研修。

→47頁

◆ 運営・管理

- ・郷土館運営…館・事業の運営に関する打ち合わせ、郷土館協議会など。
- ・一般事務…一般事務関係の研修、研究会への参加。
- ・郷土館管理…館周辺の除草作業、電気設備年次点検、業務委託説明会・入札への立会など。

→51頁

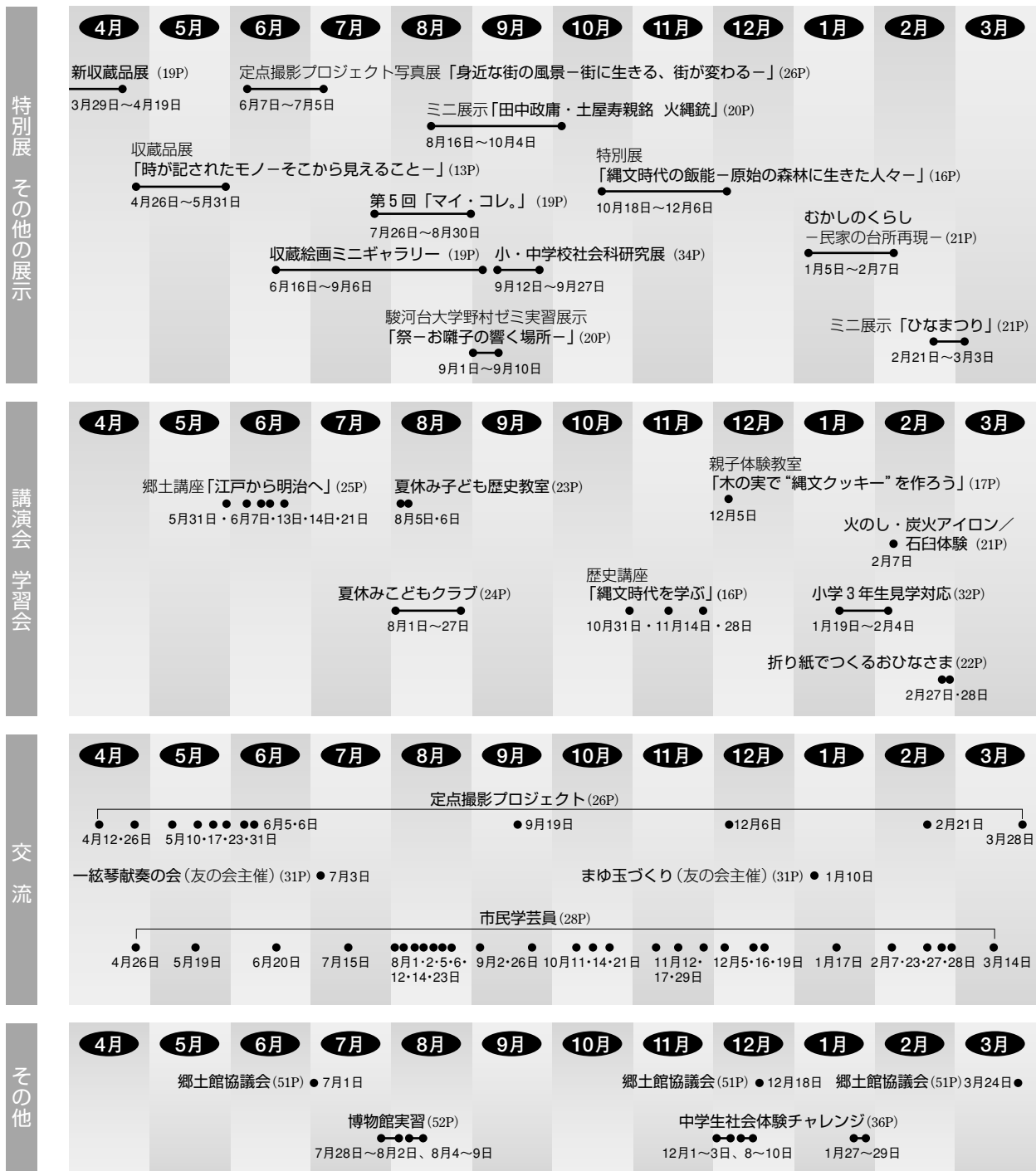
平成21年度の事業

平成21年度は、平成20年度に引き続き4人態勢(館長1・学芸員3)の人員配置により事業が推進された。

名栗村史編さん事業は、平成20年度終了の予定であったが、やむを得ない事情により、さらに平成21年度に延長された。だが、『名栗の歴史』下巻の刊行により、ようやく完結をみた。

秋の特別展「縄文時代の飯能」は、中世以前の埋蔵文化財をテーマにあつかったものとしては、当館で初めての特別展として企画された。

また、展示では、駿河台大学野村ゼミ実習展示を受け入れた。これは駿河台大学における博物館実習の一環で、学生達が郷土館の特別展示室において展示を開催するものであり、大学との連携の新たな試みである。



収藏品展

時が記されたモノ —そこから見えること—

期 間	平成21年 4月26日(日)～5月31日(日)		
開館日数	30日間		
入館者数	2,121人(1日平均70.7人)		
展示点数	51点		
総 経 費	300,194円(入館者1人あたり141.5円)		
(内 訳)	印 刷 費 85,050	写真関係費 17,321	展示委託料 66,150
	通信運搬費 20,640	消耗品費 60,708	賃 金 50,325

1 趣 旨

歴史資料として重要な「時」情報をもつ、いわゆる紀年銘資料は、時間の流れに沿った縦軸での捉え方により民具の編年研究において利用されてきた。本展示では、このような捉え方とは別の“一定の時間の中で存在していたことが明らかなモノを集め、時間の流れに対し横軸で切ることにより、その資料が属した時代の雰囲気や垣間見ることができないか”、また“モノに文字が記されている資料を集め、文字情報を全体的に俯瞰することにより、それを使っていた先人の、モノに対する意識が見えてこないか”、という切り口で、収蔵資料が発するメッセージを解き明かしていくことを目的とした。

2 展示の構成

はじめに

モノに「時」を記す意識について問題提起し、導入とした。

モノに文字を記す

記された文字情報とその目的

モノに記された文字情報をア「モノの製作に関わる情報」、イ「入手に関わる情報」、ウ「所属に関わる情報」、エ「備忘のための記録」の4つに分け、それぞれ資料を展示した。

「時」を記す意味

「時」情報は、ほとんどの場合入手した時期を表しており、モノに文字を記すのは、それを入手したことが所有者の人生や生活において大きな意味があったと考えられる。その一例として、川越の呉服屋で修業をした人が、その後、飯能で呉服商を開業した明治24年(1891)に入手した硯箱を展示した。

江戸時代のモノ —140年を超えた重み—

大量消費社会にいきる私たちにとって、江戸時代のモノが、現在まで大事に使われ残されてきたこと自体、大きな驚きである。長い年月の間、人々に使われてきたモノを年代の古いものを中心に展示した。展示資料の中で最も古いものは、明和8(1771)年の「奉納稲荷大明神諸願成就」の旗であった。

モノから見えてくる時代の雰囲気

—絹甚が出来た頃—

「時」情報が記されているモノは、それが存在した時代と今を生きる我々との対話を仲立ちしてくれる。ここでは、店蔵「絹甚^{きぬじん}」が起工し竣成した明治35年から37年のモノを一堂に集め、それらの素材・形・色といった情報が、当時の様子をどのようにイメージさせるのか試みた。

おわりに

—「時」が記されたモノから見えること—

「時」が記されたモノから、それと所有し使っていた人たちの“モノを持つ喜び”が見えた。しかし、一方、ある時代の雰囲気をその時に確実に存在した「モノ」だ



展示風景

けでイメージしてもらうことの難しさを示してまとめとした。

3 印刷物

ポスター(B 2判カラー)	300枚
ちらし(A 4判白黒)	1,200枚
リーフレット(A 4判白黒2ページ)	250枚

4 評価

モノに「時」を記す意味とは何か、というのが本展示のテーマであった。年紀を記すという行為は、その「時」に重要な意味が込められていることは間違いないが、このことから導き出したのが“モノを持つ喜び”が見える、というのは、いささか安易であったといわざるを得ない。現代に生きる私たちの意識

などにも視野を広げて分析を加えていけば、もう少し来館者に魅力的なメッセージを発信できたかもしれない。

本展示は、入館者数もそれほど多くなかったものの、アンケートの集計結果を見ると、回答者の77%が興味をもって展示を観てくれたことがわかった。自由意見の中には、「なぜ年号や名前を書いたのか、逆に今は書かなくなったのか、おもしろい深みのあるテーマだった」と今回のテーマ設定を評価する意見も寄せられた。収蔵資料をただ展示するだけでなく、それを1つの切り口によって抽出して、そこから人々の意識や生きていた時代を捉えようとする新たな試みは、成功したとはいえないかもしれない。しかしそのチャレンジに対してはある程度評価していただいたように思われる。

展示資料目録

(寄贈者・所蔵者敬称略)

No.	資料名	年代	資料 No.	記された文字	寄贈者名	
はじめに						
1	めん板	明治33(1900)	民具	No. 2111	「明治参拾三年拾壹月埼玉縣入間郡加治村字川寺第貳拾五番地 平民土屋惣市」	土屋宗治
2	「四季打鉄砲」鑑札	安政6(1859)	民具	No. 2573	(表)「四季打鉄砲壹挺 玉目三匁五分 武州高麗郡小瀬戸村百姓武兵衛」(裏)「川上金五助役所 安政六未年三月」	須田洋一郎
3	武州秩父郡上吾野内中沢組御地詰帳	慶長2(1597)	岡部家文書	No. 1	(表紙)慶長二丁酉年霜月六日 武州秩父郡上吾野内中沢組御地詰帳	
I モノに文字を記す						
4	万石通	大正6(1917)	民具	No. 3395	(網杵側面)「大極上々改良大形万石」/「武州飯能町秋山節店作」/「漏斗部」「大正六■新調」	中村興夫
5	唐箕	昭和8(1933)	民具	No. 427	(漏斗部)「昭和八癸酉年六月八日求之 製造元入間川町関根唐箕店 手数料五拾銭フルイ■■■ 代金八円送料二十銭計八円七十銭」/「栗原■ 三人共持チ」	栗原桂他 2名
6	双眼鏡(ステレオビューワー)	明治41(1908)	民具	No. 2280	(箱底)「明治四拾壹歳六月 双眼鏡 飯能通一藤田」	藤田美津子
7	お蝶・め蝶	大正11(1922)	民具	No. 3109	「大正拾壹年参月吉辰新調 万 中村屋所有」	櫛笥亮映
8	絹糸結束台	明治24(1891)	民具	No. 1316	「埼玉縣高麗郡飯能町 0800 糸繭大印織物 374061 大工馬場兼八 明治廿四年八月作之 大河浅五郎持」	大河原平三
9	利福証文箱	—	民具	No. 2572	(蓋表)「利福証文箱」	須田洋一郎
10	書物筆筒	—	民具	No. 2585	「古新諸書物」/「御水帳地方書物」	須田洋一郎
11	硯箱	明治24(1891)	民具	No. 1620-2	(中四裏)「川越連雀町筆筒やニテ [] 明治貳拾四年二月一日求之 所有小川泰」	小川 近
II 江戸時代のモノ						
12	幟旗	明和8(1771)	民具	No. 2582	「明和八辛卯歳正月吉祥日 奉納稲荷大明神諸願成就處小瀬戸村願主弥平次」	須田洋一郎
13	味噌桶	寛政4(1792)	民具	No. 2949	(側板13)「寛政四歳壬子六月吉日求之」(同11)「入間郡厚川村鹿山丈右衛門」	土屋宗治
14	木箱	寛政12(1800)	(未登録)		(蓋裏)「寛政十二歳庚申卯花月吉日 武州高麗郡川寺村名主五左衛門」	安心院哲也
15	三三九度の盃	文政12(1829)	民具	No. 3181	(箱)「文政十二丑年二月朔日」	小川久雄
16	三組盃・高杯	安政2(1855)	民具	No. 885	(箱)「セトモノ 安政二年求之 飯能町 ヨ 小川家」	小川郁次郎
17	財布	天保14(1843)	民具	No. 2560-4	「天保十四卯年正月甲子 来ル之 朝子」	須田洋一郎

No.	資料名	年代	資料 No.		記された文字	寄贈者名
18	吸毒管	安政2(1855)	民具	No. 2579	(箱蓋表)「吸毒管 又ヒ鍼 杵精堂科具」 (箱底)「安政二卯年孟春吉辰」	須田洋一郎
19	菓子鉢	安政6(1859)	民具	No. 3700	(箱)「安政六未年六月」／「大平老 吉田」	平沼 優
20	蓋付鉢	文久2(1862)	民具	No. 3411	(箱底)「文久二亥年二月吉日 小田氏」	横田幸典
21	フイゴ	安政5(1858)	民具	No. 3226	(蓋裏)「安政五年歳求之 久須美村小林啓之輔 玉」	岸村令一
モノから見えてくる時代の雰囲気						
22	火鉢	明治37(1904)	民具	No. 198	「明治三七年 松 小川新調 T.O」	小川 近
23	煙草盆	明治37(1904)	民具	No. 194	「明治三拾七年辰七月六日作是 松 小川T.O 2ツノ内」	小川 近
24	煙草盆	明治37(1904)	民具	No. 196	「明治三拾七年辰七月六日作是 松 小川T.O 2ツノ内」	小川 近
25	硯箱	明治35(1902)	民具	No. 178	(底)「明治三十五壬寅五月一日作是 松 小川」	小川 近
26	■買上帳	明治35(1902)	篠原家文書	No. H-34	(表紙)明治三十五年寅一月 ■買上帳	篠原武治
27	秋蚕種註文帳	明治35(1902)	篠原家文書	No. H-41	(表紙)明治三十五年第六月吉日 秋蚕種註文控	篠原武治
28	堤防河岸工事起工関係書類	明治35(1902)	中村家文書	No. 1008	明治三十五年度追加臨時部經常部 堤防河岸工事起工関係書類 明治三十六年四月起工 加治村矢廬	中村正夫
29	河岸工事費支払補助簿	明治35(1902)	中村家文書	No. 1733	明治三拾五年度追加臨時部經常部入間川通第二工場字川通工事用 河岸工事費支拂補助簿	中村正夫
30	引札(駅弁を買う七福神)	明治36(1903)	広告	No. 61	菓子製造卸小売 武州飯能町久須美 疋田弥一郎／明治三十五年七月十日印刷 八月三十日発行	小林正夫
31	引札(自転車に乗る金太郎ほか)	明治37(1904)	広告	No. 55	萬荒物紙類手拭晒煙草壁用品セメント素麵洋傘足袋油類■白卸小売／明治三十六年七月十日印刷	—
32	引札(金庫前の恵比寿と大黒)	明治35(1902)	広告	No. 10	恭賀新年 魚乾物肥料品々大勉強武州飯能町通三 藤田藤松／明治三十五年七月十日印刷 八月三十日発行	—
33	台紙付写真「[第一飯能尋常小学校鼓笛隊他整列]」	明治37(1904)	写真資料	No. 51	—	双木利夫
34	盃(日露戦役紀年)	明治37(1904)	民具	No. 2426	「明治三拾七八年戦役記念入間郡鶴ヶ島村」	奥津 清
35	盃(祝凱旋)	明治37(1904)	民具	No. 2428	「祝凱旋 明治三十七八年戦役大字藤金」	奥津 清
36	埼玉県営業便覧	明治35(1902)	大久保家文書	No. 3	—	大久保匡三
37	東京朝日新聞号外	明治37(1904)	中村家文書	No. 1443	—	中村正夫
38	店蔵絹甚(写真)	—	—	—	—	生涯学習課
39	店蔵絹甚土戸(写真)	—	—	—	—	生涯学習課
40	大通り(写真)	(明治40年頃)	写真	No. 289	—	田中勝久
41	「[男性1人記念]」(写真)	明治35(1902)	写真	No. 264	—	田中勝久
42	「[青年1人記念]」(写真)	明治35(1902)	写真	No. 262	—	田中勝久
43	「[写真館にて男性4人記念]」(写真)	明治36(1903)	加藤家写真	No. 129	—	加藤衛祐
44	「[夫婦記念]」(写真)	明治36(1903)	加藤家写真	No. 47	—	加藤衛祐
45	「[佐世保敷島船上にて軍服姿の男性記念]」(写真)	明治37(1904)	加藤家写真	No. 142	—	加藤衛祐
46	「[第一飯能尋常小学校鼓笛隊他整列]」(写真)	明治37(1904)	写真	No. 51	—	双木利夫
47	明治35年に寄附された浄心寺の石段(写真)	—	—	—	—	浄心寺(矢廬)
48	石段寄進記念碑(写真)	明治37(1904)	—	—	—	浄心寺(矢廬)
49	広告(象印はみがき)	明治35(1902)	(『埼玉県営業便覧』)	—	—	—
50	広告(絹瓦斯糸織)	明治35(1902)	(『埼玉県営業便覧』)	—	—	—
51	広告(写真器械)	明治35(1902)	(『埼玉県営業便覧』)	—	—	—

特別展

縄文時代の飯能 —原始の森林に生きた人々—

期 間	平成21年10月18日(日)～12月6日(日)						
開館日数	43日間						
入館者数	4,548人(1日平均108.3人)						
展示点数	229点						
総 経 費	1,268,946円(入館者1人あたり279.0円)						
(内 訳)	印 刷 費	690,900	写真関係費	82,587	通信運搬費	339,892	
	消耗品費	114,939	報 償 費	40,000	賃 金	291,210	図 書 費 11,550

1 趣 旨

飯能市域では、これまでに多くの発掘調査が行われている。発掘調査で得られた情報や、出土した資料の量は膨大なものとなっており、その成果はこれまでも、教育委員会生涯学習課との共催による「埋蔵文化財出土品展」などを通し公開してきた。しかし、当館の特別展として、中世以前の埋蔵文化財をテーマにあつかったものは、これまで開催していなかったため、今回の特別展を企画した。

特別展として縄文時代の展示を行うにあたっては、次の目標を設定した。一つは「発掘調査の成果の中でも縄文時代のものについて、わかりやすくまとめ、公開すること」、もう一つは「縄文時代の飯能(縄文時代中期を中心とする)について簡潔にまとめた展示図録を作成し、市民の要望に応える」ことである。

2 展示の構成

展示を構成する際の基本方針として「基本的な事柄を丁寧に説明する」と設定した。考古学は“モノ資料からどのように情報を引き出すか”という点で発達してきており、ここを説明するの必要を感じたためである。結果として、3つのコーナー(縄文土器、石器、縄文時代の家とムラ)を柱にして、展示を構成することにした。

縄文土器

縄文土器の観察視点として“作り方”・“文様などの特徴にもとづく分類”・“使用方法”・“捨てられ方”があるということ、このコーナーで提示した。様々な見方をしないと、縄文土器は理解できないことを伝えるためである。

石器

石器は、“どんな種類があるのか”、“何に使用したのか”ということ、そして“何を根拠にそう言われているのか”ということ、実物を例に挙げて説明した。また、土器と同様に、“捨てられ方”や“出土した数量の比較”という視点から、当時の人々の暮らしぶり

を復元するための情報が得られることにも触れた。

縄文時代の家とムラ

家の跡は発掘調査においては「竪穴」と呼ばれる窪みとして見つかる。窪みの写真を見てもなかなか家のイメージがつかめない、家の構造復元図を用意した。また、炉や埋甕など家の各設備に関しては、その種類と用途について説明した。

ムラの様子は、ムラを構成する施設と、ムラ及び周辺の環境について展示した。

3 印刷物

ポスター(B2判カラー)	300枚
チラシ(A4判カラー2ページ)	5,000枚
展示図録(A4判カラー56ページ)	800部
リーフレット(A4判白黒4ページ)	600枚

4 関連事業

◎歴史講座「縄文時代を学ぶ」

「縄文時代」とは

日 時 10月31日(土) 午後1時30分～3時

講 師 笹森健一氏(元国士舘大学非常勤講師)

会 場 当館学習研修室

参加者 29人

「縄文時代中期の埼玉 一集落遺跡と土器から」

日 時 11月14日(土) 午後1時30分～3時

講 師 細田勝氏(埼玉県埋蔵文化財調査事業団)



展示風景(展示解説)

会場 当館学習研修室

参加者 29人

「飯能市内の縄文遺跡－発掘調査の成果から－」

日時 11月28日(土) 午後1時30分～3時

講師 熊澤孝之氏(飯能市教育委員会)

会場 当館学習研修室

参加者 29人

◎親子体験教室「木の実で“縄文クッキー”を作ろう」

日時 12月5日(土) 午前9時30分～12時

指導 当館学芸員・市民学芸員

参加者 27人

◎展示解説

日時 11月15日(日)午後1時30分～2時30分

解説 当館学芸員

参加者 12人

5 評価

見学者のうち約3.5%にあたる159人の方々からアンケートの回答をいただいた。展示内容については、8割の方から「良かった」という感想をいただき、おおむね好評であったと思われる。

ただ、反省点も多くあり、資料を展示した遺跡の

位置をわかりやすく明示する必要があったことや、資料などの解説にあたり一つの見解だけでなく、複数の見解を紹介すべきであったことなども挙げられる。

また、アンケートの回答で「詳しい説明で良かった」という意見が寄せられた反面、「少し難しかった」、「説明が多い」とする意見もあり、展示の構成や説明における未消化の部分を指摘されたと言える。

関連事業を含めた総体として考えると、講座や親子体験教室への参加申し込み者数も比較的多く、改めて、市民の地域の遺跡に対する関心の高さを認識させられた、今回の特別展であった。



親子体験教室

◆展示資料目録

資料の所蔵者は全て飯能市教育委員会

番号	資料名	種別など	点数	土器の時期など	出土遺跡名	調査回数	遺構名	掲載報告書・図版番号
プロローグ								
1	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式終末期	加能里遺跡	第21次	20号住居跡	飯能の遺跡(25) 第32図4
第 部 縄文土器								
2	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式	八王子遺跡		59号住居跡	—
3	縄文土器	深鉢	1	五領ヶ台式終末期	新城遺跡	第3次	1号住居跡	新城遺跡第1～8次調査 第8図1
4	縄文土器	深鉢	1	勝坂1式(猪沢式)	落合上ノ台遺跡		46号住居跡	落合上ノ台遺跡 第90図1
5	縄文土器	深鉢	1	勝坂1式(猪沢式)	落合上ノ台遺跡		8号遺構	落合上ノ台遺跡 第139図26
6	縄文土器	深鉢	1	勝坂2式(藤内式)	落合上ノ台遺跡		53号住居跡	落合上ノ台遺跡 第108図9
7	縄文土器	深鉢	1	勝坂2式(藤内式)	落合上ノ台遺跡		47号住居跡	落合上ノ台遺跡 第95図9
8	縄文土器	深鉢	1	阿玉台 b式	落合上ノ台遺跡		6号住居跡	落合上ノ台遺跡 第17図1
9	縄文土器	深鉢	1	阿玉台 b式	落合上ノ台遺跡		6号遺構	落合上ノ台遺跡 第138図17
10	縄文土器	深鉢	1	阿玉台 式	落合上ノ台遺跡		53号住居跡	落合上ノ台遺跡 第107図1
11	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式古段階	八王子遺跡		36号住居跡	大日向・八王子遺跡 第162図1
12	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式新段階	八王子遺跡		59号住居跡	大日向・八王子遺跡 第216図3
13	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式古段階	八王子遺跡		34号住居跡	大日向・八王子遺跡 第155図5
14	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	中郷遺跡	第3次	8号住居跡	飯能の遺跡(26) 第47図10
15	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	中郷遺跡	第3次	8号住居跡	飯能の遺跡(26) 第47図11
16	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式終末期	中郷遺跡	第3次	8号住居跡	飯能の遺跡(26) 第55図38
17	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式終末期	中郷遺跡	第3次	8号住居跡	飯能の遺跡(26) 第52図31
18	縄文土器	浅鉢	1	勝坂3式が共伴	落合上ノ台遺跡		23号住居跡	落合上ノ台遺跡 第52図12
19	縄文土器	浅鉢	1	加曾利E 式新段階と思われる	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第20図35
20	縄文土器	浅鉢	1	加曾利E 式期か	落合上ノ台遺跡		32号住居跡	落合上ノ台遺跡 第63図2
21	縄文土器	器台	1	勝坂3式が共伴	加能里遺跡	第21次	19号住居跡	飯能の遺跡(25) 第29図4
22	縄文土器	器台	1	勝坂3式終末期が共伴	中郷遺跡	第3次	8号住居跡	飯能の遺跡(26) 第57図50
23	縄文土器	器台	1	加曾利E 式新段階が共伴	加能里遺跡	第13次	1号住居跡	加能里遺跡第13次調査 第3図1
24	土製品	土製円盤	1	勝坂3式が共伴か	加能里遺跡	第21次	12号住居跡	飯能の遺跡(25) 第78図8
25	土製品	土製円盤	3	勝坂3式終末期が共伴	加能里遺跡	第21次	20号住居跡	飯能の遺跡(25) 第78図9～11
26	土製品	土製円盤	1	勝坂3式が共伴	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第78図12
27	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第39図1
28	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第39図2
29	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第39図3
30	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第39図4
31	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第40図5
32	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第40図6
33	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第40図7
34	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第40図8
35	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第40図10
36	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第41図11
37	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第41図12

番号	資料名	種別など	点数	土器の時期など	出土遺跡名	調査回数	遺構名	掲載報告書・図版番号
38	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第41図13
39	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第42図15
40	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第42図16
41	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第42図18
42	縄文土器	深鉢(炉体土器)	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第42図19
43	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第43図20
44	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第43図21
45	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第43図24
46	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第44図26
47	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第44図27
48	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第44図28
49	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第45図29
50	縄文土器	深鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第45図30
51	縄文土器	器台	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第45図33
52	縄文土器	浅鉢	1	勝坂3式	加能里遺跡	第21次	21号住居跡	飯能の遺跡(25) 第45図34
53	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式新段階	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第13図1
54	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式新段階	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第13図2
55	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式新段階	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第13図3
56	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式新段階	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第14図5
57	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式新段階	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第15図7
58	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式新段階	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第15図8
59	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式新段階	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第15図9
60	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式新段階	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第16図10
61	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式新段階	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第17図12
62	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式新段階	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第17図14
63	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第18図17
64	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式新段階	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第18図18
65	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第18図20
66	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第19図23
67	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第19図24
68	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式新段階～式	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第19図26
69	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式新段階～式	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第20図28
70	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式新段階～式	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第20図30
71	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式新段階～式	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第20図32
72	縄文土器	深鉢	1	加曾利E 式新段階～式	加能里遺跡	第20次	15号住居跡	飯能の遺跡(25) 第20図33
第 部 石器								
73	石器	石皿	1	加曾利E 式新段階～式が共伴か	八王子遺跡		23号住居跡	大日向・八王子遺跡 第132図22
74	石器	石皿	1	加曾利E 式古段階が共伴	八王子遺跡		36号住居跡	大日向・八王子遺跡 第163図8
75	石器	石皿	1	加曾利E 式古段階が共伴	八王子遺跡		36号住居跡	大日向・八王子遺跡 第163図11
76	石器	磨石	1	勝坂3式が共伴	八王子遺跡		13号住居跡	大日向・八王子遺跡 第110図12
77	石器	磨石	1	勝坂3式～加曾利E 式が共伴	八王子遺跡		17号住居跡	大日向・八王子遺跡 第120図7
78	石器	磨石	1	加曾利E式・連弧文系土器が共伴	八王子遺跡		30号住居跡	大日向・八王子遺跡 第144図11
79	石器	敲石	1	勝坂1式～3式が共伴	八王子遺跡		64号住居跡	大日向・八王子遺跡 第230図7
80	石器	敲石	1	加曾利E 式古段階が共伴	八王子遺跡		45号住居跡	大日向・八王子遺跡 第185図5
81	石器	敲石	1	加曾利E 式新段階が共伴	八王子遺跡		67号住居跡	大日向・八王子遺跡 第235図9
82	石器	凹石	1	曾利系の土器と連弧文系土器が共伴	八王子遺跡		32号住居跡	大日向・八王子遺跡 第150図14
83	石器	凹石	1	加曾利E 式新段階～式が共伴	八王子遺跡		34号住居跡	大日向・八王子遺跡 第157図22
84	石器	凹石	1	加曾利E ～式が共伴	八王子遺跡		55号住居跡	大日向・八王子遺跡 第209図19
85	石器	打製石斧	1	加曾利E 式新段階～式が共伴	八王子遺跡		34号住居跡	大日向・八王子遺跡 第157図7
86	石器	打製石斧	1	加曾利E 式新段階～式が共伴	八王子遺跡		34号住居跡	大日向・八王子遺跡 第157図9
87	石器	打製石斧	1	加曾利E 式新段階～式が共伴	八王子遺跡		34号住居跡	大日向・八王子遺跡 第157図11
88	石器	打製石斧	1	加曾利E 式新段階～式が共伴	八王子遺跡		34号住居跡	大日向・八王子遺跡 第157図12
89	石器	打製石斧	1	加曾利E 式新段階～式が共伴	八王子遺跡		34号住居跡	大日向・八王子遺跡 第157図15
90	石器	打製石斧	1	加曾利E 式新段階～式が共伴	八王子遺跡		34号住居跡	大日向・八王子遺跡 第157図16
91	石器	磨製石斧	1	加曾利E 式が共伴	八王子遺跡		18号住居跡	大日向・八王子遺跡 第121図13
92	石器	磨製石斧	1	加曾利E 式が共伴	八王子遺跡		18号住居跡	大日向・八王子遺跡 第121図14
93	石器	磨製石斧	1	加曾利E 式古段階が共伴	八王子遺跡		36号住居跡	大日向・八王子遺跡 第163図5
94	石器	磨製石斧	1	阿玉台 式が共伴	八王子遺跡		37号住居跡	大日向・八王子遺跡 第164図19
95	石器	石鏃	1	加曾利E 式新段階～式が共伴か	八王子遺跡		23号住居跡	大日向・八王子遺跡 第131図11
96	石器	石鏃	1	加曾利E 式新段階～式が共伴か	八王子遺跡		23号住居跡	大日向・八王子遺跡 第131図12
97	石器	石鏃	1	加曾利E 式新段階～式が共伴	八王子遺跡		34号住居跡	大日向・八王子遺跡 第157図1
98	石器	石鏃	1	加曾利E 式新段階～式が共伴	八王子遺跡		34号住居跡	大日向・八王子遺跡 第157図2
99	石器	石鏃	1	加曾利E 式新段階～式が共伴	八王子遺跡		34号住居跡	大日向・八王子遺跡 第157図3
100	石器	石匙	1	加曾利E 式古段階が共伴	八王子遺跡		36号住居跡	大日向・八王子遺跡 第163図1
101	石器	石匙	1	加曾利E 式新段階～式が共伴	八王子遺跡		34号住居跡	大日向・八王子遺跡 第157図4
102	石器	石錐	1	加曾利E 式が共伴	八王子遺跡		18号住居跡	大日向・八王子遺跡 第121図6
103	石器	石錐	1	加曾利E 式新段階～式が共伴	八王子遺跡		34号住居跡	大日向・八王子遺跡 第157図5
104	石器	石皿	6	勝坂3式が共伴	八王子遺跡		9号住居跡	大日向・八王子遺跡 第101図
105	石器	磨石	11	勝坂3式が共伴	八王子遺跡		9号住居跡	大日向・八王子遺跡 第101図
106	石器	敲石	1	勝坂3式が共伴	八王子遺跡		9号住居跡	—
107	石器	凹石	6	勝坂3式が共伴	八王子遺跡		9号住居跡	—
108	石器	打製石斧	86	勝坂3式が共伴	八王子遺跡		9号住居跡	大日向・八王子遺跡 第100図
109	石器	磨製石斧	4	勝坂3式が共伴	八王子遺跡		9号住居跡	大日向・八王子遺跡 第101図
110	石器	石鏃	5	勝坂3式が共伴	八王子遺跡		9号住居跡	大日向・八王子遺跡 第100図
111	石器	石匙	1	勝坂3式が共伴	八王子遺跡		9号住居跡	—
第 部 縄文時代の家とムラ								
112	縄文土器	深鉢(炉体土器)	1	勝坂2式	八王子遺跡		62号住居跡	大日向・八王子遺跡 第224図1
113	縄文土器	深鉢(炉体土器)	1	勝坂3式	八王子遺跡		10号住居跡	大日向・八王子遺跡 第103図1
114	縄文土器	深鉢(埋甕)	1	加曾利E 式新段階か	八王子遺跡		34号住居跡	大日向・八王子遺跡 第155図2
115	縄文土器	深鉢(埋甕)	1	加曾利E 式	八王子遺跡		34号住居跡	大日向・八王子遺跡 第155図1

その他の展示

当館では、収藏品展や特別展のほかにも、文化財の普及啓発や収蔵資料の紹介などを目的として、いろいろな展示をおこなっている。ここでは、それらを紹介する。なお、平成21年度には新たに市内に所在する駿河台大学の要請により、学生の博物館実習としての展示を受け入れた。

春一番 お宝拝見！ 新収藏品展

期 間 平成21年3月29日(日)～4月19日(日)

開館日数 19日間

展示点数 26点

入館者数 1,873人(1日平均98.6人)

1 趣 旨

当館の収蔵資料は、その多くが市民からの寄贈によって成り立っている。資料を寄贈していただいた方を顕彰するとともに、最新の収蔵資料を市民に公開するため、当館では平成13年度より「年度収藏品展」を開催してきた。今回展示するのは、平成20年度に寄贈を受けたものである。

しかし、スペースの関係から寄贈資料すべてを展示することはできないので、例年通り寄贈者1人最低1点は展示できるように資料を選定した。

本展示は、このすぐ後に実施する収藏品展との違



展示風景(特別展示室)

いを明確にするため、平成20年度から名称を「新収藏品展」と改めている。

2 内 容

平成20年4月から21年3月までの間に当館の収藏品となった古文書や古写真、民具、句碑原稿などを特別展示室にて公開した。

収蔵絵画ミニギャラリー

期 間 平成21年6月16日(火)～9月6日(日)

開館日数 68日間 展示点数 3点

入館者数 6,109人(1日平均89.8人)

1 趣 旨

収蔵絵画ミニギャラリーは、当館に収蔵している絵画を見たいという要望に応えた展示である。

展示ホールの壁面を使用していない期間に限定して、市内作家の3点の絵画を展示した。

2 内 容

展示した絵画は、西洋風の建物が立ち並ぶ間を、



展示風景(展示ホール)

多くの人々が行きかう様子を描いた「横丁(A)」(内田晃 2000年)、コラージュの手法を取り入れた抽象画「エレクトーン」(白木正一 1979年)及び、シュルレアリズムの作品「悦楽」(早瀬龍江 1953年)である。

第5回

「マイ・コレ。」(マイコレクション展)

期 間 平成21年7月26日(日)～8月30日(日)

開館日数 31日間 展示点数 87点

入館者数 3,018人(1日平均97.4人)

1 趣 旨

「マイ・コレ。」は、市民のコレクションを広く紹介するもので、コレクションのおもしろさやその意義を伝えると共に、新たな入館者層の獲得と特別展示室の有効利用を目的としている。5回目となる今回は、平成19年度に募集したコレクションを紹介する最後の展示であった。

2 内 容

今回は、「北から南から 西へ東へ ポスターでめぐるニッポンの祭り」というタイトルで、市村敏行氏の全国のお祭りポスターのコレクションを紹介した。展示点数は87点である。

3 関連事業

◎コレクター自身による展示解説

日 時 8月2日(日) 午後2時から

参加者 11人



展示風景

ミニ展示

「田中政庸・土屋寿親銘 火縄銃」

期 間 平成21年8月16日(日)～10月4日(日)

開館日数 43日間 展示点数 1点

入館者数 3,854人(1日平均89.6人)

1 趣 旨

市内在住の方が所蔵されているこの火縄銃は、銃身を現在の市内大字北川の住人田中政庸が、精緻な装飾は、市内大字南出身と伝えられる鐵翁寿親が付けている。寿親は幕末から明治中期にかけての作品が飯能市域に残っていて、そのうち2点は市の指定文化財にもなっている。一方の政庸については、この火縄銃によってその存在が明らかとなった。

この鉄砲は非常にできばえがよく、幕末期にこうした名品を製作できる職人が本市域にいたことを、市民に知ってもらうことを目的とした。

2 内 容

火縄銃はエアタイトケース内に展示した。施された装飾と銘がよく見えるように、展示にあたっては銃身と銃床を分けた。

銃身には「武州北川住田中政庸」の銘が見られ、銃床には「鐵翁」銘がある。それぞれの資料の脇に、銘の部分の拡大写真を置き、観察の助けとなるようにした。



展示風景

駿河台大学野村ゼミ実習展示

「祭 -お囃子の響く場所-」

期 間 平成21年9月1日(火)～9月10日(木)

開館日数 10日間 展示点数 38点

入館者数 697人(1日平均69.7人)

1 趣 旨

飯能市では地元大学である駿河台大学と様々な面で連携した事業を展開している。この展示もその一つで、野村ゼミからの依頼により今年度初めて実施したものである。将来学芸員をめざすゼミの学生が、



展示風景

学習の一環として企画・準備し、展示の設営まですべて学生たちが担った。

依頼されたのが年間予定の決まった後の段階であったため短い開催期間となってしまったが、期間中、学生が常時会場にいて来館者に丁寧に対応していた。

2 内 容

飯能祭は昭和46年に始まり、郷土芸能の保存・育成、商業観光の向上等を目的として市民総参加によるふるさと祭りとして飯能市全体で協力して創設され、今年で37回目を迎える。その飯能祭の特徴として、山車、囃子といった行事が一度に行われるというこ

とがあげられる。

そこで今回の展示では、山車、囃子、衣装に焦点を当て、それぞれブロックごとに展示した。

飯能祭を紹介することを第一として、多くの人に祭りの知識を持たせつつ、自分の住んでいる土地に昔から根付く文化を知ってもらうことを目的とした。さらに次世代や、飯能市に愛着を持っている人たちに向けて、今の飯能祭の特徴や歴史を紹介することで飯能祭をよく理解してもらうように配慮した。

主な展示物は山車の縮小模型、楽器、衣装類、お面、過去のポスターなどである。

小学3年生見学対応展示

むかしのくらし -民家の台所再現-

期 間 平成22年1月5日(火)～2月7日(日)
開館日数 30日間
展示点数 53点
入館者数 3,298人(1日平均109.9人)

1 趣 旨

小学校では、3年生になると人々の暮らしの移り変わりについて学ぶことになっており、社会科副読本「はんのうし」でも当館の見学が組み込まれている。この展示は、この単元の学習に対応するために毎年開催しているものである。

近年では、博物館が所蔵している昔の道具を使った回想法が試みられているが、この展示が高齢者の方々の憩いの場となるよう、平成18年度より市内や近隣に所在する高齢者の介護施設にも案内を行っている。昔の民家を模した空間を再現する展示は平成14年度から行っているものである。

2 内 容

特別展示室内に農家のカッチと土間の様子を再現した。カッチには囲炉裏を作って周囲に箱膳や茶の



展示風景

間にある家具などを置いた。土間にはかまど・流し場を設け、関連する道具を展示するとともに、壁面を使って農具などを掛けた。

また、このスペースを利用して、火のし・炭火アイロンの体験をする関連事業を開催した。

3 関連事業

◎火のし・炭火アイロン／石臼体験

日 時 2月7日(日) 午前10時～午後3時
指導者 当館市民学芸員
会 場 当館特別展示室・休憩コーナー
参加者 232人(延べ人数)

ミニ展示

「ひなまつり」

期 間 平成22年2月21日(日)～3月3日(水)
開館日数 10日間
展示点数 36点
入館者数 1,999人(1日平均199.9人)

1 趣 旨

商店街の活性化を主な目的として、商店の店先や民家の座敷などに雛人形を展示してもらい、観光客や市民に雛飾りと街の散策を楽しんでもらう「雛飾りお宝展in飯能」も5回目を迎えた。回を重ねるごとに規模が拡大してにぎやかになり、参加する店や家は今回108箇所となった。

当館では商店街との連携を目的として第1回目から毎年、ミニ展示として参加している。

2 内容

これまででは、他の展示を特別展示室で開催していたため、主に展示ホールのみで実施していたが、今回は特別展示室やエントランスホールも使い、規模を大きくした。

特別展示室では「むかしの暮らし」で設営した囲炉裏と板の間をそのまま残して雛人形を展示するとともに、反対側の壁に沿って机を並べ、17点の内裏雛等を展示した。展示ホールには畳を敷いた上に段飾りの御殿雛を配し、エントランスホール等にはケース内に内裏雛を展示した。また、高野敬子氏所蔵のコレクションである雛掛け軸を9点、雛人形の背面に飾った。このように広い範囲に多数の資料を展示したため、空間全体が非常に華やかなものとなり入館者に好評だった。

また、期間中、関連事業として「おりがみで折るおひなさま」を実施した。

3 関連事業

◎おりがみで折る「おひなさま」

日時 2月27日(土)・28日(日)
午前10時～12時・午後1時～3時

講師 当館市民学芸員

会場 当館休憩コーナー

参加者 27日39人、28日36人



展示風景

今月の一品

1 趣旨

当館では、入口右側、展示台上の縦・横・高さともに60cmのケース内に、月替わりで収蔵資料を展示している。「今月の一品」と題し、その時期にふさわしい資料を展示することで季節感を加えるとともに、収蔵資料の活用を図っている。

平成18年6月から実施しているものである。



1月の展示「粟穂稗穂」

2 展示資料

下記一覧表のとおり。

月	資料名	資料番号等
4月	筆箱・ノート	No.2889・2909-1・2
5月	旧中藤小学校寄付者芳名札	No.3801・3802・3806・3808・3810
6月	大正時代の福引	No.182
7月		
8月	奉公袋	No.3966
9月	99年前の大水害を象徴する鐘	No.5154
10月	須田家日記	小瀬戸村須田家No.2・25・42
11月	灯明皿	No.2614・2616-1・2・2618-1・3・2624・NT172
12月	原形をとどめていない古文書	No.177
1月	粟穂稗穂	No.949
2月	桶	No.1058
3月	初節句に贈られた袴雛	(小島文子氏寄贈)

夏休み子ども歴史教室

「石器作りに挑戦 ～君も縄文人～」

日 時 平成21年8月5日(水)
午前9時30分～11時30分
平成21年8月6日(木)
午前9時30分～12時10分

対 象 小学生
参加者数 29人 29人
会 場 当館学習研修室
指 導 者 柳戸信吾・村上達哉(以上当館学芸員)
市民学芸員(4人)、博物館実習生(3人)

1 趣 旨

今年の特別展は縄文時代を対象としているため、これに関連づける意味も含め、縄文時代の石器づくりを体験する。制作する石器の機種は縄文時代を通じて多く用いられていた打製石斧(土掘り具)と石鏃(弓矢の先につける矢じり)を選んだ。

石器を作りそれを使う過程を通し、現在の生活ではあまり気にしない「石」に目をむけ、手作りの良さ、石器づくりの難しさや楽しさ、そこに込められた縄文人の工夫や知恵、現在との生活の違いなどを感じてもらうことを目的に開催する。

なお、黒曜石の石鏃作りに関しては事前に長野県長門町の黒曜石体験ミュージアムを訪れご指導いただいた。

2 内 容

8月5日(水)

まず、最初に研修室で縄文時代の説明をした。実物の土器と石器をグループごとに配り、それを観察してもらいながら縄文時代がどんな時代であったか

の解説をした。

次にいよいよ石器作りである。1日目は打製石斧。打製石斧がどのような石器であったか、及びその作り方を説明し、1階の搬入路に移動し、そこに敷いたシートの上で打製石斧を作った。あらかじめ用意しておいた石から自分で好みの石を選び、台石の上でその石を立てて持ち、別の石でコツコツと叩いて形を調整していく。器用に作れた子もいれば、あと少しというところで二つに割れてしまった子、なかなか形にならない子など様々であった。一緒に付き添った親も加わり、何とか全員が完成することができた。

石器ができると2階に上がり木の柄をつける。これは事前に切り込みを入れた木を用意し、そこに石器をシュロ縄で巻いて固定した。できあがった子は隣の空き地で実際に土を掘った。草が多く掘りづらかったが、それでも使い方を体感することはできた。できあがった土掘り具は各自持ち帰ってもらった。

8月6日(木)

2日目は、石鏃づくりである。石鏃の素材は黒曜石で、この辺では長野県の和田峠や伊豆地方の一部でしか採れないガラス質の石である。加工しやすく鋭利な刃ができるため、旧石器時代・縄文時代を通じ、わざわざ取り寄せて使用されていた。このことを最初に説明し、ガラスと一緒に気をつけないと手を切ることを十分に注意した。

次に黒曜石の石器がいかに鋭利かを示すために事前に制作しておいた黒曜石のナイフで鶏肉を切ってもらった。今の包丁、あるいはそれ以上に切れることを伝えたかったが、包丁を使った経験のある子どもはほとんどおらず、中には気持ち悪がって鶏肉に触れない子もいた。むしろ付き添っていた親たちのほうがその切れ味に感動していた。



打製石斧づくりー石をたたいて形を整える



できあがった打製石斧で土を掘る

石鏃づくりでは安全のために防護用のメガネと子ども用の軍手を配った。そして黒曜石の剥片の端を、太い銅線をさした軸で少しずつ押し割っていき形を整えていった。本来は鹿の角を使うのだが、多量の入手が困難なため、銅線で代用したのである。これは黒曜石体験ミュージアムで実践していることを採り入れた。各グループには博物館実習生および市民学芸員が付き、指導した。

石鏃ができあがるとそれを竹の矢に紐で固定し、竹の弓を持って1階の搬入路で射撃体験をした。鹿や猪などの絵を描いた紙のスクリーンに向かって弓矢を放つのである。しかし、最初は弓がうまく引け



的に目掛けて弓矢を射る



石鏃づくりー石鏃を竹の矢に固定する

ない子が多く、引き方、手を離すタイミングなどを指導することで少しずつ弓矢を射ることができるようになった。中には猪や鹿に見事命中する子もいた。

最後に学習研修室にもどり、黒曜石で切った鶏肉を煮込んだカレーを食べながら感想などを聞き、終了とした。

準備不十分によりとまどった点もいくつかあったが、子ども達は縄文時代の知恵と工夫を体感できたと思う。

夏休みこどもクラブ

日 時 平成21年8月1日(土)～27日(木)
午前9時～午後5時
対 象 市内の小学生
会 場 当館常設展示室・入口前スペース
参加者数 216人(延べ人数)

1 趣 旨

夏休み中の子どもの居場所として社会教育施設がそれぞれの特性を活かして連携することで、より有意義な夏休みを子どもたちに過ごしてもらうことを目的とするもので、当館、中央公民館、子ども図書館が平成16年度より共催で行っている事業である。「居場所づくり」を通して子どもたちの健全育成や地域の教育力の向上に社会教育施設が積極的に寄与するとともに、日ごろ疎遠になりがちな社会教育施設に気軽に親しんでもらう契機になることも意図した。また、公民館・図書館・博物館が隣接している地の利を活

かし、より連携を深めて事業展開していくきっかけとしたい。

2 内 容

3館共通のスタンプカードを発行し、期間中に当館や中央公民館、子ども図書館の各会場で定められたことに参加するとそれにスタンプが1つ押される。20個集めると記念品がもらえるという特典があり、子どもたちに喜ばれた。

当館では、常設展示室内を日替わりで移動するマナビィ(生涯学習のマスコット)を子どもたちに探しでもらった。マナビィは毎日1問ずつ穴あきクイズを出題している。子ども達が、答えとなる一文字を「発見シート」のマス(175マス)の中で該当するものを全て探し、それを毎日塗っていくと、最後に夢馬(森林文化都市 飯能市のイメージキャラクター)の図柄が現れるようにした。

また、8月1日と2日には「竹の水鉄砲で遊ぼう」というコーナーを当館入口手前に設置し、市民学芸員が水鉄砲を作る指導をし、それで遊んでもらった。

郷土講座（美杉台公民館共催）

江戸から明治へ

— 矢嵐に見る変革期の地域社会 —

日 時 平成21年5月31日(日)・6月7日(日)・
13日(日)・14日(日)・21日(日)
午前10時から11時30分まで
※ただし6月13日のみ午前9時30分から
12時まで

対 象 一般

会 場 美杉台公民館視聴覚室(6月13日を除く)

参加者数 156人(延べ人数)

講 師 橋本直子氏(葛飾区郷土と天文の博物館)
・清水裕介氏(中央大学大学院生)・酒井
麻子氏(藤沢市文書館史料専門員)・須田
努氏(明治大学准教授)・尾崎泰弘(当館学
芸員)

1 趣 旨

当館では、大字矢嵐の中村興夫家に伝来する古文書の寄贈を受け、平成21年3月に『武蔵国高麗郡矢嵐村中村家文書目録』を刊行した。当該史料群は幕末から明治前期のものが多く含まれており、そこには時代が大きく変わろうとしている時期に、地域の人々がそれにどのように対応しようとしていたのかが克明に記録されている。この時に矢嵐の人たちが考えたことやとった行動は、現代の変革期に生きている私たちが自分たちの住む地域の今後を考えていくうえで、多くの示唆を含んでいると思われる。



第5回「飯能の幕末から明治」

また、中村家文書は、これまで地域には伝えられていなかった歴史的事実を浮かび上がらせ、より豊かな地域の歴史像をわれわれに示してくれた。

そこで、昭和になって住み始めた人たちには矢嵐、前ヶ貫地区の成り立ちを、また古くから住んでいる人たちには、今回明らかとなった地域の移り変わりを知ってもらい、このことが古い集落と新しい住宅地が併存するこの地区を考えていくための共通認識となることを目的とした。

2 内容

第1回(5/31)

「入間川から考える関東平野の河川環境」

矢嵐の川普請に関する文書から入間川の治水方法について解説した。

第2回(6/7)「村の“カタチ”を探る」

征矢神社をめぐって生じた「事件」から矢嵐、前ヶ貫、岩淵三ヶ村の成り立ちを明らかにした。

第3回(6/13) 現地見学会

矢嵐、前ヶ貫地区を実際に歩き、江戸時代から明治時代の景観とその移り変わりを説明した。

第4回(6/14)「矢嵐村の寺院」

矢嵐にある浄心寺の梵鐘と戦争の関わりと矢嵐にかつてあった修験の寺について明らかにした。

第5回(6/21)「飯能の幕末から明治」

中村家文書を手がかりに武州世直し騒動や飯能戦争といった、飯能の幕末から明治にかけて起きた事件における民衆の行動とその意識について解説した。



現地見学会

行政運営において、市民との協働はもはや不可欠のものとなってきている。博物館でも市民との協働や連携による事業の取り組みが多く見られるようになった。

博物館における市民参加活動を一般的に「交流」活動と呼んでいるが、当館においては、定点撮影プロジェクトと市民学芸員がそれにあたる。当館と市民との双方向性の情報交換と交流を目的とするこれらの事業は、当館の活動において特色の一つとも言え、力を入れて取り組んでいる。

定点撮影プロジェクト

1 概要

定点撮影プロジェクトは、市民自らが、刻々と移り変わっていく「今」の時代を写真で記録し後世に残していくことを目的として平成10年度に開始した事業である。

参加者は各地域で決められた地点を定期的に撮影する(地点撮影)。撮影地点は通り・駅前・交差点など昔から写真に撮られているところや変化の激しいところ、橋や学校などの地域の特徴的な建物などである。また、これとは別に、日常的生活を写真で残すために毎年参加者で設定したテーマに沿った撮影をおこなっている(テーマ別撮影)。

撮影した写真は撮影者がフィルム台帳に内容を記録するとともに、地点撮影の場合には撮影場所、撮影目標、撮影の際の注意点などをまとめた「撮影地点カード」を作成している。地点撮影もテーマ別撮影も日常生活している人でないと本来の生活の様子は撮影できないものであり、地域の変化を示す良好な資料として当館に蓄積されている。

また、撮影した成果を紹介するための写真展を毎年開催している。この写真展の展示作業や解説文の執筆などは参加者が主体的におこなっており、現在では当館職員がそれをサポートする程度で完成するまでに至っている。この展示は、他の市民に対しても写真記録の必要性を伝え身近な歴史を考えるきっかけを与えるものとなっている。

2 活動の概要

今年度の定点撮影プロジェクト写真展は商店街活性化と関連づけるために、商店街の古写真と現在の風景との対比を行うことが前年度の打ち合わせで決まっていた。その後、地元商店街連盟が6月2日から28日にかけて、店先にその店の古い写真を展示する「まちなか散歩—商店の歩みを訪ねて—」を実施す

ることがわかった。定点撮影プロジェクト写真展は例年、7～8月に開催していたが、上記の商店街連盟のイベントと開催時期を合わせた方が効果があるとの判断から、6月7日から7月5日を会期とすることとした。

このため、4月～5月は展示の準備をすすめ、毎年春に実施している地点撮影は10月～11月にかけて行った。

3 定点撮影プロジェクト写真展

第11回

身近な街の風景

—街に生きる、街が変わる—

期 間 平成21年6月7日(日)～7月5日(日)

開館日数 25日間

入館者数 2,220人(1日平均88.8人)

展示点数 写真70枚(33地点)

1 開催趣旨

今年のテーマは「身近な街の風景」とし、市街地商店街の昔と今を写真で紹介する。

商店街の風景や商店街で行われたイベント、店内の様子など、昭和20～30年代にかけて撮影された約30点の写真を中心に現在の風景と対比する。さらに平成4年に銀座通りの店を1店ずつ撮影したアルバムも展示。当時のはなやかさやなつかしさを味わってもらおう。

また、同時期に開催する飯能市商店街連盟主催の「まちなか散歩 —商店の歩みを訪ねて—」を協賛事業に位置づけ、お互いに協力する。

これらの展示やイベントを通じて中心市街地の魅力再発見や活性化につなげることを期待する。

2 展示構成

市街地商店街の29地点の昔と今の写真を対比させたほか、現在、商店街で行われているイベント4点を紹介した。また、会員の一人が平成4年に銀座通りの店を1店ずつ撮影したアルバムを「17年前の銀座通りの記録」として紹介するとともに、飯能市商店街連盟主催の「まちなか散歩—商店の歩みを訪ねて—」の各店で写真をすべて展示した。

3 その他

展示写真の一部を10月1日(木)～10月26日(月)の期間、西武飯能ペペの4階ホール前で展示した。



展示風景

活動一覧

回	月日	曜日	種類	内容	参加人数
1	4/12	日	打合会	写真展のタイトル検討、展示写真の選定など	6
2	4/26	日	打合会	展示写真の最終確認、写真パネルの作成など	8
3	5/10	日	打合会・展示準備	展示写真の選定、解説文の検討	5
4	5/17	日	展示準備	解説文等の検討・作成	4
5	5/23	土	展示準備	解説文等の検討・作成	3
6	5/31	日	展示準備	解説文等の検討・作成	3
7	6/5	金	展示準備	解説文等の検討・作成	2
8	6/6	土	展示準備	展示設営	6
9	9/19	土	打合会	写真展の反省、西武飯能ペペでの展示についてなど	7
10	12/6	日	打合会	定点撮影地点の撮影結果・次年度の展示候補についてなど	7
11	2/21	日	打合会	次年度の写真展展示写真（代表的な地点）選定など	7
12	3/28	日	打合会	次年度写真展展示写真（各地区の写真）選定	8

合計66人

市民学芸員

1 これまでの経緯

当館における市民学芸員は「市民に向けた学習機会を提供するシステム」であり、「本務学芸員を補完する立場」で「博物館側の情報発信機能と受け手の市民の間をつなぐ伝達媒体としてのサポーター」であると位置づけられている(当館『研究紀要』第1号)。現在では、何らかのボランティア組織をもつ博物館が増えているが、その多くは基本的に歴史や自然など専門分野をベースとした活動になっている。しかし、当館の場合は教育普及や整理など事業別にその都度養成を行い、市民学芸員の認定をしている点の特徴である。

第一期市民学芸員の養成は、平成12年1月の「特別展企画運営参加型」で、21人が参加した。講座の受講者は、同年秋に予定されていた特別展「飯能、戦後の暮らし」の企画段階から参加し、体験教室や展示解説などの運営にも携わった。

第二期は、平成12年3月の「博学連携事業参加型」で、30人の参加を得て同年7月の夏休み親子歴史教室及び翌年1・2月の小学3年生見学対応に従事した。その結果、当館が提供する小学3年生の「むかしの暮らし」の学習プログラムは、質、量ともに飛躍的に充実し、それ以後の小学3年生の見学対応はこの体制をベースに行われている。

第三期は教育普及分野での養成であったが、第一期は西川林業の道具の基礎調査を行うことを目的とし、平成16年2月から養成が開始された(「民俗調査参加型」)。この調査の目標は、当館にとって長年の懸案であった西川材の生産に関わる道具を県指定文化財とすることにあり、新たに2人が市民学芸員として認定された。第一期養成講座には、第二期の市民学芸員も参加したため一体的に活動することとなり、結果的には「民俗調査参加型」の新たな学芸員も小学3年生見学の対応にも従事してもらうことになった。

さらに、平成19年度には博学連携事業参加型としては2度目、通算で第三期となる市民学芸員の養成講座を実施し、17人が新たに認定された。新たな市民学芸員は、その年の小学3年生の見学から対応に加

わってもらい、これを中心とする博学連携事業は、新たな力を得て一層充実した。

しかし、新たな力を得て博学連携事業を推進していく中で、活動終了を表明する人が出現、依然としてモチベーションの低下が大きな問題点として浮上してきた。

平成20年度のはじめに30人を数えた市民学芸員であったが、平成21年度当初には6人が減り、合計24人となっていた。

2 活動の概要

人数が漸減する状況の改善も念頭におき、平成21年度では平成20年度と一部テーマを変えて部会活動を行なっていくことにした。

部会で検討するテーマは3つ設定された。一つは、平成20年度より検討が継続中の、子どもを対象とした教育普及事業の展開に関するもの(A)、あとの二つは小学3年生の見学対応プログラムを充実させるためのもの(B・C)で、以下のとおりである。

- A. 休日の体験学習プログラム
- B. 小学3年生見学対応学習ノート改善
- C. 紙芝居プログラム改善

各部会活動への参加は自由で、平成20年度同様、それぞれの部会に本務学芸員が一人ずつ、担当として関わることにした。

活動一覧(全体)

回	活動日	曜日	開始時刻	テーマ	講師・担当	内 容	参加人数
1	4/26	日	13:30	4月例会	尾崎	平成21年度の活動について	14
2	5/19	火	13:30	5月例会・研修会	宮内慶介氏 (生涯学習課文化財担当)	講義「加能里遺跡と飯能の縄文時代」/部会活動について	11
3	6/20	土	9:30	6月例会・研修会	吉田雅之氏 (株式会社文化環境研究所)	部会協議/講義「ミュージアムの展望と課題について考えるー日本とアジアの博物館の現況からー」	13
4	7/15	水	13:30	7月例会・研修会	柳戸・尾崎・村上	本務学芸員による常設展示室の展示解説/部会協議	13
5	8/1	土	9:00	夏休み子どもクラブ運営	村上	「竹の水鉄砲で遊ぼう」運営	6
6	8/2	日	9:00	夏休み子どもクラブ運営	村上	「竹の水鉄砲で遊ぼう」運営	4
7	8/5	水	9:00	夏休み子ども歴史教室運営	柳戸・村上	小学生対象の夏休み子ども歴史教室 「石器づくりに挑戦！ー君も縄文人ー」の運営補助	3
8	8/6	木	9:00	夏休み子ども歴史教室運営	柳戸・村上	小学生対象の夏休み子ども歴史教室 「石器づくりに挑戦！ー君も縄文人ー」の運営補助	4
9	8/23	日	9:30	8月例会・研修会	岡野早苗氏(飯能市立図書館)・ 中村美恵子氏 (飯能市子ども図書館)	講義「飯能市立図書館における児童サービス」・ブックトーク「昔のくらしをのぞいてみよう」/部会協議	13
10	9/26	土	9:30	9月例会・研修会	菱吉信氏(東吾野小学校教諭)	講義「社会科副読本の編集について」/部会協議	15
11	10/21	水	9:30	10月例会・研修会	村上達哉(当館学芸員)	特別展「縄文時代の飯能」展示解説/小学3年生社会科見学用学習ノート改善などについて	14
12	11/17	火	13:30	11月例会	尾崎	小学3年生社会科見学対応・館外視察研修について	12
13	11/29	日	8:00	館外研修会	尾崎	埼玉県立さきたま史跡の博物館見学	13
14	12/5	土	8:30	親子体験教室運営	村上	親子体験教室「木の実で“縄文クッキー”を作ろう」運営補助	8
15	12/16	水	9:30	「むかしのくらし」展展示	尾崎・村上	小学3年生見学対応展示「むかしのくらし」展設営	7
16	12/19	土	9:30	12月例会	柳戸・尾崎	小学3年生見学対応準備(見学スケジュール、紙芝居・石臼体験のプログラム内容説明、実演など)	14
17	1/17	日	10:00	小学3年生見学対応事前準備	尾崎	「昔の道具調べクイズ」の会場準備	7
18	2/7	日	9:30	「火のし・炭火アイロン」/ 石臼体験	村上	小学3年生見学対応展示「むかしのくらし」展付帯事業運営	9
19	2/23	火	9:30	2月例会	尾崎	小学3年生見学対応の反省・評価、来年度の活動について	13
20	2/27	土	9:00	「折り紙で作るおひなさま」	村上	「ひな飾りお宝展 in 飯能」関連事業「折り紙で作るおひなさま」の運営	3
21	2/28	日	9:00	「折り紙で作るおひなさま」	尾崎	「ひな飾りお宝展 in 飯能」関連事業「折り紙で作るおひなさま」の運営	2
22	3/14	日	9:30	3月例会・研修会	高野淳一氏 (飯能市教育センター)	講義「学習支援が必要な子どもの理解と指導」/来年度の活動について	14

合計212人

部会A 休日の体験学習プログラム

回	活動日	曜日	開始時刻	内 容	参加人数
1	7/15	水	15:15	今後の活動方針検討	2
2	8/23	日	11:20	今年度の活動について検討	4
3	9/26	土	13:30	夏休み子どもクラブで製作体験する水鉄砲の試作	3

合計9人

部会B 小学3年生見学対応用学習ノート改善

回	活動日	曜日	開始時刻	内 容	参加人数
1	7/15	水	15:15	学習ノートに対する意見の確認	3
2	8/23	日	11:25	学習ノート改善案の提出、改善案検討手順の確認	2
3	9/26	土	11:30	学習ノートの改善点と内容の検討	2
4	10/11	日	9:30	学習ノート改善の具体的内容について協議、決定	5

合計12人

部会C 紙芝居プログラム改善

回	活動日	曜日	開始時刻	内 容	参加人数
1	7/15	水	15:20	代表者選出・紙芝居プログラム改善の課題と対策について協議	5
2	8/12	水	14:00	課題の整理、「聞き取り調査」実施・学習ノート掲載案について協議	7
3	8/14	金	14:00	事務局と「聞き取り調査」について打ち合わせ。アンケート調査の実施を検討	3
4	8/23	日	11:20	アンケート調査の方法について協議	4
5	9/2	日	9:30	アンケート調査の方法・学習ノート掲載案などについて協議	8
6	9/26	土	11:30	アンケート調査進捗状況の確認、学習ノート掲載案の検討	6
7	10/14	水	9:30	学習ノート掲載案・アンケート集計について協議	6
8	11/12	木	9:30	アンケート集計結果に基づく改善・アンケート集計結果報告書作成などについて協議、決定	5

合計44人

郷土館友の会

飯能市郷土館友の会は当館の活動を後援し、また展示、収蔵資料を通して知識を培うことを目的とする団体で、平成2年4月1日に発足した。年会費は500円で、主催事業には、毎年7月3日の「一絃琴献奏の会」、1月の「まゆ玉づくり」及び「新春琴の調べ」がある。そのほか会員には当館から特別展等事業の案内が送られることになっている。

近年、会員の高齢化とともに友の会活動への参加や会費納入のために来館する会員が大幅に減少していることから、平成20年度に会員全員に対して、期限を設けて継続を希望するかどうかの意志確認を行った。その結果、会員数は平成20年度末の段階で83名となった。

また、平成17年度から開催していた「新春琴の調べ」は、小学3年生見学対応の準備と重なることや、収蔵品展・新収蔵品展の時期が早まり、1～3月の事業量の見直しを余儀なくされた結果、開催しないこととなった。

一絃琴献奏の会

飯能市中山の智観寺には、徳川御三家のうちの1つ水戸徳川家の付家老を代々務めた中山家の墓所がある。中山氏十代の信敬は文武両道に優れ、中でも「一絃琴」の名手といわれている。毎年、その命日である

7月3日に智観寺に集い、中山氏の遺徳を偲びつつ、高橋通氏の一絃琴を献奏している。

日 時 平成21年7月3日(金)

午後2時～4時

参加者 25人

奏 者 高橋 通氏

まゆ玉づくり

養蚕の盛んなところでは、小正月や初午などに繭の増収を祈って団子を作り、つげの木などの小枝にさして飾る。このときに作った団子を「繭玉」といい、本市域でもかつては広くみることできた行事であった。

この小正月の行事を見直し未来に伝えていくため、「まゆ玉」を作り、小枝にさして飾る学習会を開催している。

日 時 平成22年1月10日(日)

午後1時30分～3時30分

会 場 当館学習研修室

参加者 32人

指導者 内沼須美氏ほか3名



「まゆ玉づくり」

博物館と学校教育との連携は、学校での「総合的な学習の時間」の導入や「地域学習」の重視から、近年多くの博物館で取り組むようになってきた。当館では、小学生の見学対応、小・中学校社会科研究展、出張授業、中学生職場体験の受け入れなどを実施している。このほか、学校への資料の貸出や、地域学習の一環として児童・生徒がグループ単位で郷土館を利用することなども増えており、当館と小・中学校との距離が縮まりつつある。

小学3年生見学対応

市内の小学3年生が社会科の「昔の人々とくらし」の単元で地域学習をする中で、例年1月から2月にかけて当館を見学している。この小学3年生見学対応のために、当館では3つのプログラムを用意しているが、その内容の改善、準備、当日の説明や指導は市民学芸員が中心となり実施している。準備経過・実施状況は以下のとおりである。

まず毎年9月ごろに市内小学校に見学の希望を確認、日程調整終了後、10～11月に担当の先生と打合せをして見学内容や移動手段を決めている。

児童の移動については、平成17年度からは、希望する学校には市のバスを、また、平成21年度からは一部民間からもバスを借り上げて児童の送迎を行なっている。その結果、公共交通機関の時間の心配がなくなり、当館での学習時間が十分に取れるようになった。

見学当日は、通常、クラスを複数の班に分け、同時並行で行なわれている3つのプログラムをそれぞれが異なる順序で巡り、決められた時間枠の中で、すべてのプログラムが体験できるように予定を組んでいる。

しかし、少人数の学校の場合は、全員で各プログラムを一つずつ行なうため、市民学芸員の手が空いてしまう。それを防ぐためと、バスでは全員が一度に来館出来ない学校の見学を、クラス毎で何回かに分ける必要から、学校の理解の上、同日に二校で一緒に見学してもらうことも平成20年度から始めた。

3つのプログラムの内容は以下のとおりである。

常設展示見学

3つの説明・体験のうち、2つを選択してもらっている。一つは常設展示の「乱世に生きぬく(中世)」のコーナーにおける、長光寺雲版と常楽院の軍荼利明王立像を中心とした国指定重要文化財の説明、二

つ目は「山地のくらし(民俗)」のコーナーにおける西川材(林業)に関する説明、三つ目は「平地のくらし(民俗)」のコーナーにおける、昔の子どもの遊びの解説と紙芝居の体験である。

むかしの道具さがし

学習研修室に20点の民具を4箇所に分けて置き、児童は最初にそれら全てを観察したり触れたりした後、その中から「洗濯」、「炊事」、「学校生活」、「暖房」に使う道具を見つけるというクイズ形式の学習である。最後に児童に正解を伝え、道具の使い方を説明する。

体験学習

石臼と昔のアイロンの体験を行う。

石臼体験は休憩コーナーに設置した石臼台で、児童が米と大豆を挽き、粉にする。

昔のアイロンの体験では、児童は特別展示室に農家の台所を再現した「民家の台所」の板の間に上がり、火のしと炭火アイロンを体験する。アイロンを待っている時間は、土間部分にある水場やかまど、昔の農具などを自由に見学している。



国指定重要文化財の説明(常設展示室)

小学3年生見学対応一覧

No.	実施日	小学校名	学級数	児童数	交通手段	到着時刻	出発時刻	滞在時間(分)	対応市民学芸員数	備考
1	1/19(火)	富士見	3	89	市バス・借上乗合	9:18	11:52	154	9	
2	1/20(水)	南高麗	1	16	市バス	9:00	11:40	160	12	1月20日・21日に分けて実施(20日は1組)。
		加治	1	35	市バス・館庁用車	9:08		152		
3	1/21(木)	加治	2	71	市バス・借上乗合	9:07	11:48	161	10	1月20日・21日に分けて実施(21日は2・3組)。
4	1/22(金)	精明	1	32	市バス	9:20	12:00	160	9	
		東吾野	1	8	市バス	9:07		173		
5	1/26(火)	原市場	2	59	市バス	9:05	11:46	161	11	
6	1/27(水)	飯能第一	1	38	徒歩	9:15	12:05	170	9	1月27日・28日に分けて実施(27日は1組)。
		飯能第二	1	12	市バス	9:23		162		
7	1/28(木)	飯能第一	2	76	徒歩	9:18	11:58	160	8	1月27日・28日に分けて実施(28日は2・3組)。
8	1/29(金)	西川	1	9	市バス	9:10	11:45	155	10	
		名栗	1	11	市バス	9:05		160		
9	2/2(火)	美杉台	2	77	徒歩	9:14	11:45	151	12	
10	2/3(水)	双柳	2	70	市バス・借上乗合	9:10	11:53	163	11	
11	2/4(木)	加治東	1	32	市バス	9:12	11:50	158	10	

合計 13校 合計児童数 635人

市民学芸員のべ人数 111人



「むかしの道具さがし」(学習研修室)

飯能市小・中学校社会科研究展

1 趣 旨

本展示は、市内小中学校社会科主任会との共催である。当初は「中学生社会科研究展」として平成10年度から始まり、平成13年度以降対象を小学生まで広げ、平成21年度で12回目を数える。

学校教育においては近年、特に主体的に学習する能力の育成がさげばれている。そうした背景の中、夏期休業中は比較的時間に余裕があるため、市内の小中学校では、児童・生徒に自由研究を課すところが多い。理科や技術家庭、美術科においては作品が県展、全国展へ出品される機会が設けられているが、社会科においては同様の機会がないのが現状である。しかし、児童・生徒の地域研究の意欲は強く、研究の質も高い。

社会教育機関としての博物館は、学校教育と連携

して教育の振興を担う一面も持っている。このような作品を当館において市民に公開し、評価していただく場を設けることにより、大きな教育的効果が期待できよう。

研究作品を出展した児童・生徒には、賞状と参加賞を渡している。また、保護者が仕事帰りに見学できるように、展示開催期間中は開館時間を2時間延長し、午後7時まで開館した。

2 展示概要

期 間	平成21年9月12日(土)～27日(日)
開館日数	14日間
入館者数	1,178人(1日平均84.1人)
展示点数	小学生139点(139人)
中 学 生	80点(81人)



展示風景(展示ホール)



展示風景(特別展示室)

出張授業

市内の小中学校からの依頼により、当館学芸員が学校に向いて授業を行う出張授業も、学校と連携した重要な事業である。児童・生徒が地域学習をする中で、地域のことを専門に調査研究している学芸員から話を聞くことは、子どもたちの関心を高める効果大きい。このため、近年、学校からの依頼が増加してきている。

授業の内容としては、地域学習のための導入として地域の歴史の概要や調べ方を説明するものが多い。それ以外にはフィールドワーク、実物資料を使った授業などもある。毎年同じテーマでの授業を求められるが、内容については児童・生徒の反応等を参考にしながら、教材を替えるなどして適宜改善に努めている。

出張授業一覧

No.	実施日	学校名	学年	科目	テーマ	内容	担当学芸員	対象人数
1	4/28(火)	美杉台小学校	4	総合学習	みすぎの歴史	総合的な学習の導入として、美杉台地区の歴史、地域に残る遺産などを説明した。	尾崎	60
2	5/12(火)	美杉台小学校	4	総合学習	フィールドワーク (前ヶ貫地区)	前ヶ貫地区を児童といっしょに歩き、昔からある土蔵や堰、石塔などを解説した。	尾崎	31
3	5/19(火)	美杉台小学校	6	総合学習	縄文土器の焼成体験	縄文土器について解説をしたあと、実物を参考にしながら粘土で縄文土器を作成した。	村上	83
4	5/20(木)	美杉台小学校	4	総合学習	フィールドワーク (矢風地区)	矢風地区を児童といっしょに歩き、昔からある土蔵や寺子屋の建物、神社について解説した。	尾崎	31
5	5/26(火)	飯能第一小学校	5	総合学習	一小周辺の歴史と飯能の方言	総合的な学習の導入として学校周辺の「古いもの」と方言について概要を説明した。	柳戸	127
6	6/2(火)	美杉台小学校	4	総合学習	古文書を使用した調べ学習	矢風の古文書を使って、矢風・前ヶ貫にある土蔵や農産物についての情報を提供した。	尾崎	31
7	6/17(水)	美杉台中学校	全校	総合学習	「方言をさぐるう」	飯能の代表的な方言を紹介し、方言の特徴、調べ方を解説した。	柳戸	8
8	6/17(水)	美杉台中学校	全校	総合学習	「方言をさぐるう」	飯能の代表的な方言を紹介し、方言の特徴、調べ方を解説した。	柳戸	8
9	6/17(水)	美杉台中学校	全校	総合学習	「飯能戦争」	「振武軍廻文」を教材に飯能戦争について説明し、あわせてこの文書からわかることを考えてもらった。	尾崎	10
10	6/19(金)	加治小学校	3	総合学習	加治の自慢を見つけよう	加治地区の古い写真や地域にある石仏、寺社などについて解説した。	村上	106
11	10/15(木)	飯能第一小学校	4	社会科	宮沢湖の開拓について	宮沢湖ができるまでの経緯や工事の様子を説明した。その後、工事に使用したものと同種の道具を観察してもらった。	柳戸	132
12	11/19(木)	美杉台小学校	4	社会科	郷土を開く 宮沢湖の開発	宮沢湖ができるまでの経緯や工事の様子を説明した。	柳戸	70
13	2/16(火)	美杉台小学校	3	総合学習	昔の仕事と家	飯能地方の昔の仕事や家のつくりについて解説した。	尾崎	16

合計 713人

来館しての学習

当館の学芸員が学校に出向いて行るのが出張授業であるのに対し、それとは逆に、学校の児童・生徒が来館し学習することもある。その代表的なものは毎年1～2月に実施している小学3年生見学対応であるが(32頁参照)、それ以外にも次表のような学習があった(調べ学習等のために数人で来館した見学や

レファレンス等は除く)。

来館しての学習は、出張授業と比べるとより多くの収蔵資料や展示資料を活用できる利点がある。ただし、移動の方法で問題があるためか、その回数は横ばいである。

来館しての学習

No.	実施日	学校名	学年	科目	内容	担当学芸員	人数
1	10/21(水)	原市場小学校	3	社会科	シンボル展示「筏」を使って西川材の歴史を説明し、西川林業の道具についてのクイズを行った。	尾崎・村上	64
2	11/19(木)	南高麗小学校	3・4	社会科	シンボル展示「筏」を使って西川材の歴史を説明し、西川林業の道具についてのクイズを行った。	尾崎・村上	34

合計 98人

中学生社会体験チャレンジ

飯能市内の中学校では、中学1年生の生徒が、仕事の厳しさや働く喜びなどを学ぶために、市内の事業所や公共機関等で3日間、職場体験をする「中学生社会体験チャレンジ事業」を実施している。

当館でも毎年生徒を受入れ、博物館の業務を体験

してもらっている。外から見ただけではわからない裏方の作業を体験することにより、その大変さや喜びを実感してもらうだけでなく、当館の役割や学芸員の仕事内容を伝えることにも役立っている。

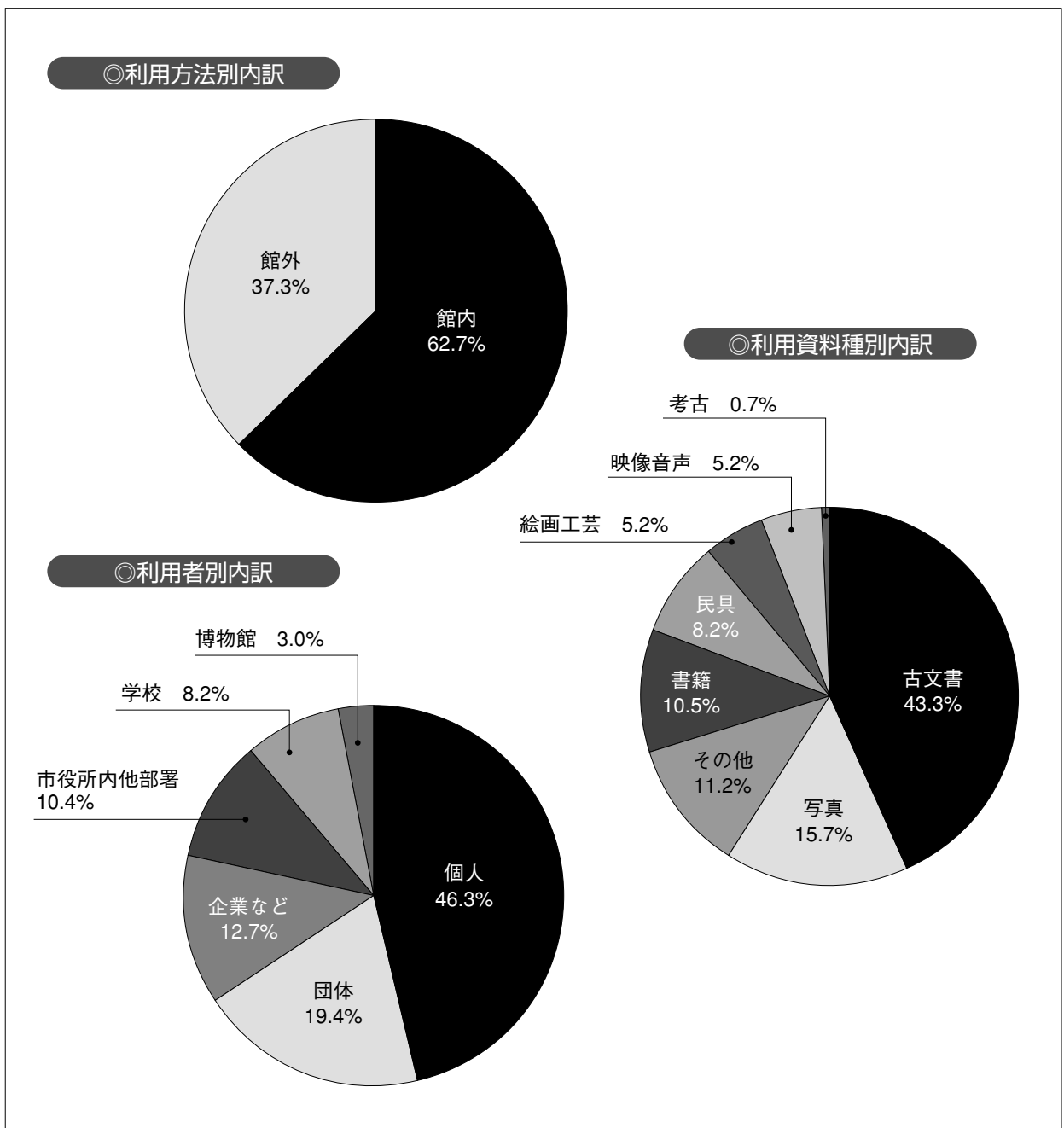
中学生社会体験チャレンジ

No.	実施日	学校名	人数	内容
1	12/1(火)～3(木)	原市場中学校	2	館内外清掃、親子体験教室「木の実で“縄文クッキー”を作ろう」会場準備、地図資料・刊行物の整理など
2	12/8(火)～10(木)	美杉台中学校	3	特別展「縄文時代の飯能」後片付け、館内外清掃、小学3年生見学学習ノート印刷など
3	1/27(水)～29(金)	飯能第一中学校	3	小学3年生見学対応補助、名栗地区古文書の収納・整理など

収蔵資料の利用（閲覧・貸し出し）

当館では、民具、古文書、古写真やビデオ、書籍などの飯能市に関するものを中心に様々な資料を収蔵している。これらの資料は展示会や講座、学習会などに利用するだけでなく、資料を傷めない範囲で市民や団体等に利用していただいている。利用の方法としては館内での閲覧と館外への貸し出しがある。

利用者の内訳を見ると、個人による調査研究や地域学習のための利用が最も多く5割弱を占める。次いで団体の利用が2割弱見られ、個人・団体の双方で全体の約7割を占める傾向は例年と同様である。この他、企業など・市役所内他部署・学校による利用がそれぞれ1割前後を占めている。他の博物館や大学からの研究や展示を目的とした利用は少なく、これも例年同様といえる。



平成21年度資料利用一覧

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
1	古写真データ	34	(株)文化新聞社	文化新聞連載「懐かしの文化写真館」に掲載	4/1～3/31
2	「宮本町仮装行列記念」写真プリントほか	2	宮本町囃子連	宮本町囃子連結成80周年記念誌掲載	4/1～5/31
3	「田中かく」写真プリントほか	3	ぐるーぶ「倶楽志」 in 飯能	講演会で使用	4/4
4	「飯能小唄」楽譜など	3	琴笛会	演奏に使用	4/4
5	須田家文書「甲辰日記」	1	古文書同好会	古文書同好会テキスト	4/4
6	商店街に関する写真一式	1	飯能市商店街連盟	商店街連盟写真展示に伴う資料閲覧	4/7
7	「飯能市銀座通り 七夕」写真パネルほか	41	飯能市商店街連盟	商店街連盟写真展示	6/1～30
8	堀越家文書「御通」など	8	織研ねこまた	所沢織物関係資料の研究	4/12
9	所蔵絵画カードファイル	5	個人	調査	4/14
10	須田家文書「甲辰日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	4/16
11	「はんのうお宝スポット」	1	個人	調査	4/17
12	須田家文書「甲辰日記」	1	古文書同好会	古文書同好会テキスト	4/18
13	須田家文書「萬用日記」	1	古文書同好会	古文書同好会テキスト	4/28
14	加藤家文書「村差出明細書帳」ほか	13	個人	学術研究「江戸時代中後期の武州西部における定期市の展開と変遷」	5/1
15	須田家文書「甲辰日記」	1	古文書同好会	古文書同好会テキスト	5/2
16	『昭和四年度第一飯能尋常高等小学校卒業記念写真帖』ほか	2	個人	自分史の作成	5/14
17	「高麗郡飯能町の景」写真プリント	1	エコツアーリズム推進室	エコツアー実施	5/15～17
18	『飯能郷土史かるた』	1	個人	参考資料に使用(「ボランティア情報」作成のため)	5/15～30
19	須田家文書「甲辰日記」	1	古文書同好会	古文書同好会テキスト	5/15
20	「飯能音頭」・「飯能小唄」レコードほか	2	飯能ケーブルテレビ	民謡収録で使用する音源	5/17～21
21	「五十三次之内猫之怪」リバーサルフィルムほか	6	(株)緑書房	『猫生活』掲載	5/23～6/5
22	天保十三年飯能村絵図レプリカ	1	個人	自由の森学園の講座に使用	5/26
23	中村家文書「田方御水帳写」ほか	99	個人	史料調査	5/27
24	宮本町山車緞帳	1	駿河台大学メディア情報学部	学生展示の参考	5/27
25	「店先」写真プリント	1	(株)山二鋼材	「まちなか散歩」に展示	5/28～6/30
26	雑のうほか	4	東吾野小学校	小学3年生国語の授業に使用	5/30～6/30
27	蔵原伸二郎画「牡丹」(1)ほか	5	個人	さいたま文学館サポーターの見学案内	6/10
28	旧吾野支所板碑	2	石仏談話会	学習	6/12
29	「飯能の文化財」ビデオ	1	美杉台中学校	授業で使用	6/12～18
30	『おらがぼうの標準語』ほか	3	個人	調査研究	6/17
31	「飯能筏唄」・「名栗川筏唄」テープ	1	個人	民謡鑑賞	6/17～19
32	『飯能の刀匠』図録 8～30pの写真・文章	40	個人	講座資料(淑徳大学公開講座)	7/11
33	須田家文書「辰日記」	1	古文書同好会	古文書同好会テキスト	6/20
34	「絵図からの伝言」展リーフレット	1	個人	小学校設計の課題のため調査	6/21
35	「銀座通り歩行者天国」写真パネル	1	(協)飯能銀座商店街	サマーフェスティバルPR用ポスター	6/28～7/10
36	須田家文書「辰日記」ほか	2	古文書同好会	古文書同好会テキスト	6/27
37	スキほか	6	個人	研究	7/2
38	須田家文書「萬用日記」	1	古文書同好会	古文書同好会テキスト	7/4
39	「飯能白ひき唄」テープほか	3	個人	町なかエコツアーガイド参考資料	7/11～14
40	須田家文書「萬用日記」	1	古文書同好会	古文書同好会テキスト	7/18
41	名栗村「社会体育2」ネガアルバム	1	名栗公民館	飯能市体育協会60周年記念誌	7/22～8/31
42	古銭	252	個人	自由研究	7/23
43	『飯能人物誌』ほか	2	個人	調査	7/23
44	「写真でたどる飯能市の50年」使用・未使用写真プリント	40	(協)飯能銀座商店街	フェスティバルにて使用	7/24～8/5
45	「はんのうお宝スポット」	1	個人	調査研究	7/26
46	浅見家文書「江戸町中事件風聞ほか届出書上等綴」ほか	54	個人	調査研究	8/15

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
47	「飯能地方の“みんな”と情景」ビデオテープなど	2	個人	盆踊り研究	8/16～22
48	『鳩山の歴史』上ほか	2	市生涯学習課	調査研究	8/18～3/31
49	高麗郡原市場村略図	1	個人	学習	8/25
50	『飯能人物誌』	1	個人	調査研究	8/29
51	堀越家文書「昭和4年1月給人本帳」	1	織研ねこまた	所沢織物に関する調査研究	8/30
52	『奥絵師狩野家墓所の調査』	1	市生涯学習課	遺跡調査の参考	9/1～10/30
53	『飯能の文化財』ビデオテープほか	4	飯能市観光案内所	観光案内所企画展「飯能の指定文化財展」	9/3～30
54	旧中藤小学校立札「中藤の雨」ほか	16	個人	郷土の歴史の調査	9/4
55	須田家文書「萬用日記」	1	古文書同好会	古文書同好会テキスト	9/5
56	平地の暮らしコーナー展示教科書	1	個人	学習	9/6
57	平地の暮らしコーナー展示風景	14	日高市立高萩小学校	授業で使用	9/7～30
58	黒田幹太郎画「追憶おはやし」	1	飯能第一小学校	校内にて展示	9/8～8/31
59	黒田幹太郎画「はな」	1	精明小学校	校内にて展示	9/8～8/31
60	「文化財写真3〈獅子舞〉」中阿寺の獅子舞写真データほか	6	東吾野公民館	ロビーにて展示	10/1～15
61	『飯能町上水道竣工記念帖』	1	(株)文化新聞社	紙面掲載	9/8～15
62	山地の暮らしコーナー展示風景	3	日高市立教育センター	社会科副読本「第5章日高市の人々の暮らしとつながり」への掲載	9/12
63	小能家文書「久留里御吟味市見世場出入一件」	1	古文書勉強会	古文書勉強会テキスト	9/12
64	ランプ	1	日高市立高萩小学校	4年生社会科の資料	9/19～10/2
65	須田家文書「萬用日記」	1	古文書同好会	古文書同好会テキスト	9/19
66	藤枝太郎打刀(サヤ)	1	堺鉄砲研究会	研究論文に使用	9/20
67	前挽鋸・「伐採現場」写真パネルほか	5	市生涯学習課	まなびピア埼玉生涯学習見本市で展示	10/28～11/4
68	『入間市史 通史編』ほか	2	個人	調査研究	9/29
69	ビデオ「日本刀のできるまで」・脇指(銘「河内守藤原国助」)ほか	4	飯能刀剣会	文化祭刀剣展開催	11/8
70	須田家文書「萬用日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	10/1
71	須田家文書「萬用日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	10/3
72	防空頭巾ほか	7	飯能第一小学校	国語「一つの花」(小4)で授業で子どもたちに見せるのに使用	10/6～11/6
73	小島喜八郎画「井上酒造」ほか	10	飯能ケーブルテレビ	飯能日高テレビ特集にて放映	10/9
74	「描かれた風景の今」(平成18年度収蔵品展展示資料)	1	飯能ケーブルテレビ	飯能日高テレビ特集にて放映	10/9～14
75	中村家文書「武州高麗郡加治領川寺村申御縄打水帳ほか」	27	個人	調査研究	10/9
76	堀越家文書「大正15年給料元簿」	1	織研ねこまた	所沢織物に関する調査	10/11
77	中村家文書「辰揮借返納取立帳」ほか	49	個人	調査研究	10/11
78	『武陽山能仁寺』ほか	2	個人	歴史研究	10/15
79	鈴木家蒐集文書「二番 店卸帳」	1	個人	先祖についての調査	10/22
80	須田家文書「萬用日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	10/24
81	都市計画図(昭和35年7月測量)	1	市生涯学習課	文化財普及図書の図版作成	10/27～11/2
82	スキ(写真データ)	1	個人	研究論文に使用	11/4
83	引札(白鳥呉服店 大黒様)ほか	2	白鳥商店	店内に展示	11/7
84	図録「入間川再発見!」ほか	2	個人	大学のゼミでの研究	11/8～28
85	『飯能の遺跡』(25)	1	個人	土器製作の学習	11/10
86	小島喜八郎画「旧市役所」ほか	20	飯能市観光案内所	飯能市観光案内所にて展示	1/5～2/1
87	千把扱き	1	東吾野小学校	社会科・理科の学習にて使用	11/10～17
88	筏展示風景	1	日刊建設通信新聞社	新聞掲載	11/11
89	『飯能の住民が燃えた時』	1	個人	研究	11/12
90	岡部家文書「普濟寺修覆につき勸化」ほか	2	個人	調査研究	11/13
91	「ファミコンで遊ぶ」写真データほか	2	市生涯学習課	平成22年飯能市成人式配布冊子掲載	11/27～12/28

No.	利用資料	点数	利用者	目的	利用期間
92	特別展「西川林業の道具」図録掲載「トチを打ち込む」写真データほか	10	埼玉県秩父農林振興センター	荒川中学生サミットにて映写	11/25
93	『歴史的公文書収集の現状と評価選別』	1	特定非営利活動法人 行政文書管理改善機構	研究用資料	11/20～12/10
94	須田家文書「萬用日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	11/21
95	『高麗神社・高麗家文書目録』	1	個人	研究	11/26
96	吾野村役場文書「請願書類」ほか	5	個人	研究	11/25
97	「大日本陶磁器窯元一覽」	1	市生涯学習課	普及図書作成	11/27
98	平成17年特別展「飯能の水力発電」調査資料 写真データ	1	市生涯学習課	文化財マップ に掲載	12/1～10
99	「完成時の名栗小」写真データ	2	名栗小学校 P T A	P T A 広報誌に掲載	12/1
100	『郷土館研究紀要』第2号掲載図版「入間川 流域の三田氏の所領と三田谷」	1	羽村市郷土館	羽村市郷土博物館紀要 第24号 へ掲載	12/4
101	堀越家文書「大正八年三月金円出入帳」	1	織研ねこまた	所沢織物調査	12/5
102	『藤田堀の写真記録』	1	市環境部	藤田堀の歴史の調査	12/9～1/31
103	須田家文書「萬用日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	12/11
104	須田家文書「萬用日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	12/12
105	「振武軍旗」写真フィルムほか	2	埼玉県立歴史と民俗 の博物館	近現代展示室の展示替	12/17
106	須田家文書「萬用日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	12/25
107	須田家文書「萬用日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	12/26
108	須田家文書「萬用日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	1/9
109	須田家文書「萬日記覚之帳」ほか	11	個人	飯能の歴史研究	1/9
110	須田家文書「萬用日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	1/16
111	「飯能市域絵図面目録」	1	駿河台大学	研究	1/23
112	堀越家文書「商品棚卸帳」	1	織研ねこまた	所沢織物に関する調査研究	1/24
113	須田家文書「萬用日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	2/6
114	堀越家文書「給料本帳」ほか	2	織研ねこまた	所沢織物に関する調査研究	2/21
115	「筏流し再現」写真プリント	2	(株) アルバ	(株) 教育画劇刊『川ナビブック 3 川をしろう』の本文中に掲載	2/26～3/31
116	「畑トンネル開削記念」写真プリント	1	個人	イカロス出版『廃道をゆく2』に 掲載	2/28～3/31
117	須田家文書「萬用日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	3/3
118	須田家文書「萬用日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	3/6
119	マサキリ・特別展「西川林業の道具」写真パ ネルほか	57	駿河台大学野村ゼミ ナール	ゼミ展示作成	3/10
120	中村家文書「学校集金誌」ほか	27	個人	調査研究	3/13～14
121	中村家文書「旧前ヶ貫村八郎衛門分御処分二 付両村分属地反別取調書」ほか	12	個人	調査研究	3/13～14
122	須田家文書「寅歳日記録」ほか	5	個人	調査研究	3/13～14
123	中村家文書「地租改正掛萬記帳」ほか	7	個人	調査研究	3/14
124	須田家文書「宗門人別印鑑控」ほか	8	個人	調査研究	3/14
125	常設展示図録「米の恵み」扉写真フィルム	1	市生涯学習課	埋蔵文化財普及図書「発掘からわ かる飯能の歴史」に掲載	3/16～31
126	ミニ展示「ひなまつり」展示写真データ	3	飯能郷土史研究会	郷土飯能 第30号(表紙)に掲載	3/17～24
127	「郷土飯能」(郷土史研究会会報)	1	飯能郷土史研究会	郷土飯能 第30号作成	3/17～24
128	福德寺阿弥陀堂図面	9	入間市博物館	駿河台大学公開講座に向けての調 査および講座での図版使用	3/18～4/3
129	振武軍旗レプリカ	1	渋沢栄一記念館	資料室展示	3/19～9/15
130	堀越家文書「給料本帳」ほか	3	織研ねこまた	所沢織物調査	3/21
131	中村家文書「公私用事務誌」ほか	28	個人	研究	3/21
132	須田家文書「萬用日記」	1	個人	古文書同好会テキスト確認	3/27
133	須田家文書「弘化4年」	1	個人	古文書の再コピー	3/31
134	飯能小唄テープ	1	個人	曲の聴取	3/30

・利用期日の開始が平成21年4月1日から平成22年3月31日までのものを申請順に配列した。

施設の利用

飯能市郷土館条例施行規則第4条では、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体が、特別展示室、学習研修室及び図書室を郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用できるとしている。

平成21年度は、駿河台大学による特別展示室の利用があった。図書室の団体利用はなかった。

学習研修室は、講座・学習会や定点撮影プロジェクト、市民学芸員といった交流事業など当館の主催事業のほか、飯能の歴史や地域文化の振興に関わる学習活動を行っている団体、サークルに利用されている。その他、団体での見学者や市内の小学生の見学、他の市町村からの視察の対応などにも使用されている。

学習研修室利用実績

利 用 種 別		平成19(2007)年度		平成20(2008)年度		平成21(2009)年度	
		件 数	人 数	件 数	人 数	件 数	人 数
団 体 等 の 利 用	恒常的活動（学習サークル）	76	1,128	86	1,233	77	1,106
	見学・閲覧	16	319	9	263	9	110
	他団体の主催事業等	10	189	19	424	13	265
	小 計	102	1,636	114	1,920	99	1,481
郷土館の主催事業		85	1,843	66	1,238	75	1,349
合 計		187	3,479	180	3,158	174	2,830
年間利用日数		156日		152日		140日	

◎主な利用団体

古文書同好会・古文書勉強会・飯能郷土史研究会・多聞の会・石仏談話会・ずいひつの会・飯能市郷土館友の会・みんなネットワーク飯能

◎平成21年度末現在で活動している学習サークル

古文書同好会

設 立 平成3(1991)年4月
 目 的 飯能市内の古文書の解説と時代背景の研究及びその活字化。
 代表者 中里和夫
 会員数 16人
 活 動 毎月第1・3土曜日

古文書勉強会

設 立 平成18(2006)年12月
 目 的 飯能市内の古文書の解説をとおして歴史を知る。
 代表者 不在
 会員数 6人
 活 動 毎月第2・4土曜日

多聞の会(仏教美術学習会)

設 立 平成6(1994)年11月
 目 的 仏像・仏画・仏教建築など広く仏教及び仏教美術についての学習。
 代表者 綾部光芳
 会員数 27人
 活 動 8月を除く毎月第3木曜日に例会(うち見学会3回)

石仏談話会

設 立 平成7(1995)年1月
 目 的 石仏を通してその時代背景や歴史、文化を学ぶ。
 代表者 不在
 会員数 12人
 活 動 第2金曜日に活動(学習会と見学会)

飯能郷土史研究会

設 立 昭和48(1973)年7月
 目 的 郷土の歴史を研究し、市民文化の進展に寄与する。
 代表者 坂口和子
 会員数 85人
 活 動 年6回の例会

みんなネットワーク飯能

設 立 平成8年(1996)年
 目 的 民踊をとおして心身の健康を高めるとともに、見聞を広め、郷土の文化を継承する。
 代表者 石井英子
 会員数 30人
 活 動 不定期

レファレンスの対応

当館には、窓口や電話、電子メールによる様々な問い合わせがある。その内容は、観光情報や文化財の所在地といったその場で答えられるものから、史料の有無や地域の歴史掘り起こしなど回答に時間がかかるものまで様々である。このうち、調査を行った場合は、その経過や回答内容などを「レファレンス対応記録票」に記入している。その理由は、それが特別展のテーマや調査活動に発展する可能性があるためと、同じような問合せがあった場合の時間や作業の無駄を省くためである。平成21年度にてレファレンス対応記録票に記入された内容は下表のとおりである。

また、平成18年度からは、それ以外のその場で答えられる内容の問い合わせについては、その件数を把握するために窓口と電話の傍に「件数記録票」を置き、対応するごとに記入することとした。その集計結果は右表のとおりである。

なお、この場合の平均対応時間は1件あたり窓口が9.8分、電話が5.5分である。

レファレンス対応件数

照会者	窓口	電話	合計
一般	111	31	142
市職員・議員	0	1	1
学校教員	1	1	2
子ども	4	1	5
不明	3	1	4
合計	119	35	154

レファレンス対応記録一覧

No.	照会日	内 容	回答日	照会者	手段
1	4/2	善通寺について	4/3	研究者	電話
2	4/3	展示室の面積について	4/4	博物館関係者	E-mail
3	5/3	「市史編さんだより」第23号(昭和61年11月)掲載の大相撲番付などについて	5/4	研究者	電話
4	5/27	飯能高等小学校(明治20～45年)の史料について	6/17	一般	来館
5	6/3	飯能市で養蚕がさかんだった頃の養蚕農家数について	6/3	市職員	電話
6	6/17	使用可能な足踏み脱穀機の有無について	6/19	一般	来館
7	8/4	小笠原島守書記兼技手で飯能に住んでいた川手文(かわてかおり)について	8/4	一般	E-mail
8	8/12	河原町にあったと聞く製糸工場について	8/30	一般	来館
9	8/23	昭和恐慌の頃の、町製要覧など飯能町の統計資料の有無について	8/23	一般	来館
10	10/25	昭和7年の山伏峠車道開通に関する資料の有無について	10/25	一般	来館
11	12/8	飯能の絹市ほかについて	12/8	一般	文書
12	1/14	浄心寺十三世霞月諦玄の履歴ほかについて	1/15	一般	電話
13	1/14	古写真の撮影場所について	1/17	一般	来館
14	2/2	我野村の名主平沼与五兵衛について	2/4	一般	電話
15	2/3	絵図師双柳新井新兵治について	2/4	一般	電話
16	2/6	ザリガニのことを「アカチョッキン」というか	2/6	番組製作会社	電話
17	3/9	名栗村での差別事件の有無について	3/11	市職員	来館
18	3/10	浅間塚のいわれについて	3/11	一般	E-mail
19	3/15	「武州鼻緒騒動」関係史料の有無について	3/15	研究者	来庁対応

当館に対しては、他の団体や機関から講師派遣や原稿執筆の依頼が年間数件ある。この講師派遣の件数や依頼内容についても、地域の文化・歴史を調査・研究する機関としての当館の存在価値を測る、バロメーターの一つと言えよう。

なお、講師派遣のうち学校からのものは「博学連携」の出張授業の項(35頁)に掲載してあるため、それ以外のものについて示すと、下記のとおりとなる。

講師派遣一覧

No.	実施日	時間	依頼機関	内 容	対象者	人数	会 場	担 当 学芸員
1	4/7(火)	14:10 } 15:10	飯能市役所職員課	新規採用職員研修「飯能の地理と歴史」	新規採用職員	18	飯能市役所	柳戸
2	5/9(土)	13:45 } 14:30	原市場子ども応援団	出前講座「江戸時代の家族－赤沢村宗門人別帳からわかること－」	原市場子ども応援団団員	42	原市場小学校多目的室	尾崎
3	5/23(土)	11:00 } 12:30	駿河台大学	公開講座「彩・ふるさと喜楽学」第4回講座「飯能縄市の成り立ちと景観」	彩・ふるさと喜楽学講座受講者	251	駿河台大学	尾崎
4	6/27(土)	10:05 } 11:10	赤沢・茶内の会	出前講座「幕末期の赤沢村」	赤沢・茶内・原市場の歴史を知ろう!! 参加者	20	赤沢会館	尾崎
5	8/8(土)	9:15 } 9:47	飯能市役所体育課	平成21年度スポーツ少年団友好都市交流事業事前学習会「飯能市と高萩市のつながり」	飯能市スポーツ少年団団員及び指導者	21	市民体育館会議室	尾崎
6	8/25(火)	13:00 } 16:30	飯能市教育センター	「はんのう・探検・発見・体験」研修会「飯能の歴史と文化」・「郷土館と学校との連携について」・常設展示と収蔵庫見学	平成21年度初めて飯能市に転入した教職員	24	当館学習研修室・常設展示室・収蔵庫	柳戸
7	12/7(月)	9:20 } 10:50	駿河台大学	博物館実習講義「小規模博物館の学芸員の実情－飯能市郷土館を例に－」	駿河台大学学生	16	駿河台大学	柳戸

収 集

当館はモノ資料やそれに関する情報を通して市民が地域の歴史や文化について学習するための社会教育機関である。その使命を果たすためには、モノ資料を収集し保存することが不可欠である。収集の多くは市民からの寄贈によっているが、それは資料寄贈申請書(施行規則様式第5号)の提出とそれに対する資料受領書(同様式第7号)の交付によってなされ、そこで初めて当館の所蔵となる。

収集の手段としては、この他に市役所内各課・施設、機関からの移管や、購入もある。このようにして収集した資料は、市民の財産として永遠に保存、管理していくために整理作業へと移される。

寄贈資料

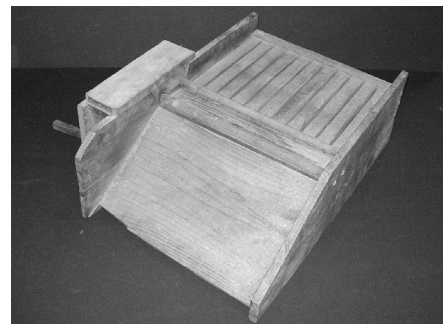
(敬称略)

No.	資料名	数量	寄贈者名
1	埼玉県飯能中学校学則・飯能中学校校友会会則案など	8点	渡辺兼庸
2	『天文大先生 千葉歳胤のこと』	1点	山口正義
3	彩の国まごころ国体ホッケー競技資料・美杉台地区生涯学習意識調査結果報告書ほか	16点	美杉台公民館
4	台紙付写真「松屋呉服店創業二十五年祝賀大売出し」・『武蔵野鉄道開設由来記』など	8点	小川 近
5	岡部好央家文書	5箱	亡岡部正家相続財産 管理人土屋良一
	角樽	2点	
6	パンフレット「飯能市立東吾野小学校 祝落成」・「東吾野小学校開校百周年記念式 写真で綴る」	2部	内海広美
	古銭	252枚	
7	レコード「新飯能小唄」	1点	石井英子
8	古文書	1点	牛米 努
9	『飯能の住民が燃えた時』	1点	浅見徳男
10	捺染用道具(型紙・ヘラ)	一式	木田文枝
	たとう紙・巻見本・カタログ	3点	
11	DVD「奥武蔵“みんなよう”物語」(制作記念誌含む)	2点	石井英子
12	小川八千代家文書	一式	加藤 樹
13	『武蔵国郡村誌』第一～第十・『学制八十年史』ほか	18点	東吾野小学校
14	手拭「第5回奥武蔵駅伝競走大会」・「恒例秋冬物の松美会 松屋呉服店別室」	2点	小川 近
15	戦時中の絵葉書・報国債券ほか	17点	成澤盈夫
16	昭和四年三月(飯能実科高等女学校)卒業記念写真帖・写真「飯能実科高等女学校先生・ 生徒記念」	2点	菊池好太郎
17	第22回国民体育大会秋季大会飯能市会場宿泊案内ほか	20点	菊池好太郎
18	出征の時の日の丸寄せ書・勲八等瑞宝章授賜状ほか	4点	田辺トミ
19	観光協会他文書(レコード・写真・8mmビデオ含む)	12箱	市商工観光課
20	毛羽取機	1点	内野博司
21	座り雛	5体	小島文子
22	毛羽取機	1点	柏崎要助・的板利夫・ 青木 茂
23	小島喜八郎画「5月の対岸にて」ほか	11点	小島としゑ
24	写真「幻の橋脚」	1点	飯島士郎
25	建具製作道具	一式	新井仲三

購入資料

平成21年度に、下記の資料を購入した。

資料名 石臼 2点(体験学習用)



毛羽取機(No.20)

整理（情報化）

当館が収集した飯能市の歴史や文化に関する様々なモノは、そのままでは博物館の資料とはなりえない。「整理」とは、資料についての情報を整理し利用可能なものにする作業で、この過程では様々な記録が作成される（ドキュメンテーション）。44頁のところで触れた資料寄贈申請書などもそのひとつである。

当館の場合は、民具を除いて受け入れ台帳を作成していないので、資料が受領されると資料1点1点についてのカード作成に取りかかる。カードの書式は資料の種類によって異なり、古文書・典籍を除きすべてのカードには資料写真も添付される。それに記載された情報の一部をPC上の目録に入力し検索の手段とするのである。すなわち整理作業とは、ドキュメント (document) 作成を通じた資料の情報化にほかならない。

課題としては、モノに付属しない地域の情報（例えば聞き取り結果や地域遺産の所在情報）の管理についてが挙げられる。これを組織でどう共有化し引きついでいくか、検討する必要がある。

●資料整理の概要

民具

民具とは、一般的には人々が生活の必要から製作、使用してきた一切の道具を指すが、当館の場合、古文書・典籍、古写真、絵画、工芸、考古に属さない資料のすべてがこの範疇で整理されている。

民具が搬入されるとまず受け入れ台帳に登録され、番号が与えられる。それが資料番号となる。そして資料名・寄贈者氏名・住所、寄贈年月日などのほか、寄贈者から聞き取りした製作時の状況や使用した時期、使い方、その大きさや材質などの情報がカードに記録される。平成21年度は345点の資料を整理した。

なお、収蔵している民具のうち、西川材生産に関係する用具448点は埼玉県有形民俗文化財に指定されている。

古文書・典籍(文献資料)

古文書・典籍とは、紙に文字や記号、図像などが記録されている資料のことで、地域史料と呼ばれているものの中心を占めるものである。当館の収蔵史料は、昭和49年から昭和62年まで行われた飯能市史編さん事業の過程で収集されたものが中心で、それに平成2年4月の開館以降寄贈されたものからなる。

飯能市史編さん事業で収集した史料については、手書きの仮目録しかないので、カードを作成し、内容を確認した上でエクセルで目録を作成する「再整理」を行っている。

また、新たに受領した史料についても同様の作業を行い、収蔵史料の検索効率を向上させるとともに今後の目録刊行に備えている。

今年度は、新たに寄贈を受けた渡辺兼庸家文書(東京都板橋区)、成澤盈夫家文書(平戸)などのほか、追加で寄贈された小川近家文書(本町)・菊池好太郎家文

書(本町)の整理と、以前既に収蔵していたものの再整理及び須田省一郎家文書(小瀬戸)の再整理を行った。なお、再整理及び新たに受け入れ整理を行った史料群については、中性紙封筒・保存箱への詰め替えを行い、燻蒸を経たのち特別収蔵庫に収納している。

古写真

当館で収蔵している写真資料は個人所蔵の写真を複写させていただいたものと、館で所蔵しているものの2種類に分けることができる。これらの資料はいずれも、所蔵者(旧所蔵者)を単位に整理をおこない、写真1点ずつカードを作成し、所蔵者などからの聞き取りや他の資料から得られた被写体についての情報を記録している。また、目録データはコンピュータで作成している。

絵画

軸装や額、屏風などに仕立てられた日本画に加え、本市に在住または、ゆかりのある作家の油彩、デッサンなどの近代絵画を収蔵している。これらについては作家ごとにカード化し、当館収蔵庫と山手用地内の土蔵にて管理している。

工芸

工芸資料には、市指定文化財である双木本家飯能焼コレクションや落合寿親の手による香合、接収刀剣類を含む日本刀などがある。

考古資料

当館で収蔵している考古資料は、市民から寄贈を受けた飯能焼原窯表採資料や板碑などである。なお、教育委員会生涯学習課による発掘調査で得られた考古資料は、山手用地内の生涯学習課収蔵庫で保存して

いる。

その他の資料

このほかに、他の博物館、市の機関などが発行した図録、報告書、要覧などの図書類がある。これらについては発行機関別に受け入れ台帳を作成している。

また、本市に関係するビデオソフトやDVD、記録映像として価値があるもの、さらにはレコードやテープ、CDといった音声資料も収蔵している。これらの資料についても台帳が作成され、利用できるようになってきている。

カード作成もしくは目録登録済資料点数一覧（平成21年6月現在）

民具	古文書	古写真	絵画	古美術	工芸	文学	考古	映像	レコード	テープ	図書	合計
4,949	40,322	4,632	432	1	272	26	1,764	207	856	84	13,554	67,099

修復

丸中織物工場製作昭和初期16mmフィルム

当館では、現在の南町にあった中里織物工場が昭和10年前後に撮影した16mmフィルム9本を所蔵している（下表）。しかし、近年、酢酸臭が顕著になってきており、支持体の劣化や乳剤の変質、カビの発生など今後の保存が危ぶまれるようになってきた。

そこで、平成20年度よりクリーニングを行ってカビや汚れなどの劣化要因を除去し、併せてその画像をDVCAMに変換し保存を図っている。

平成21年度は、このうちのNo.1～3までの3本を行った。

丸中織物株式会社製作16mmフィルム一覧

No.	容器外面タイトル	フィルム表題	長さ (フィート)	撮影年月日	製作	撮影	状況
1	丸中用 光栄	昭和九年拾壹月拾七日 光栄 丸中織物株式会社	175	昭和9.11.17			
2	第参回体育大会		400	昭和9			
3	遠足汐干狩 丸中したしみ会	昭和十一年五月八日 遠足汐干狩 丸中織物株式会社	350	昭和11.5.8			
4	新工場建設 祝南京陥落		400				平成20年度修復
5	丸中工場 第四回体育大会 したしみ会	昭和九年拾月廿一日 第参回体育 大会 丸中織物株式会社したしみ会	400	昭和9.10.21	日比谷商店	甘茶倶楽部 中川孝吉	後半劣化著しい
6	飯能工場懇話会主催 第四回 体育大会 丸中工場参加巻	第4回工場従業員慰安運動会 丸中織 物株式会社参加出場状況 主催飯能工 場懇話会 後援埼玉県工業懇話会	400	昭和10.4.21			劣化著しい
7	朝香宮御台臨 旅行大島登山 防空 演習実況		400				
8	丸中工場 運動篇		400				劣化著しい
9	遠足江ノ島 安全週間 永田道ぶしん		300				平成20年度修復

※ゴシック体が平成21年度に修復したものの。

保存

●新収蔵資料の燻蒸

当館では、平成15年度から新規に収集した資料をビニールシートで覆う被覆燻蒸を実施している。年1回荷解室で行い、資料はその後に収蔵庫に収納される。

平成21年度は7月3日(金)に準備として燻蒸対象物を移動し、6日(月)から9日(木)まで燻蒸を行った。使用薬剤はエキヒュームSである。この間、7日(火)から10日(金)までが休館となった。

●収蔵庫・展示室の環境調査

また、収蔵資料に劣化をもたらす虫菌類の有無を調べるための環境調査を年2回実施している。対象は、特別収蔵庫・一般収蔵庫・収蔵庫前室・荷解室・常

設展示室・特別展示室・展示ホールで、内容は、昆虫生息調査87ヶ所(歩行性昆虫トラップ81・飛翔性昆虫トラップ6)、空中浮遊菌調査9ヶ所、表面付着菌調査が6ヶ所である。

当該年度は1回目を6月11日から7月1日まで、2回目を9月16日から10月23日までの期間で実施した。調査の結果、資料に影響を及ぼすほどの害虫や菌類の存在は確認されず、展示室・収蔵庫は良好な環境にあることがわかった。

●その他

そのほか、郷土館展示ホールに展示中の、筏模型及び大樅の幹を対象に、7月6日から7日にかけて被覆燻蒸を実施した。使用薬剤はブンガノンである。

地域の歴史、文化についての調査・研究は、地域博物館にとって核となる重要な業務である。特別展などの展示や学習会、レファレンスの対応、資料の貸出利用など、博物館活動のすべては、これを基盤として成り立っているためである。

現在のところ、調査・研究活動の現状は特別展開催のための資料調査や、研究紀要の刊行に伴う単発的な調査・研究が主体となっている。当館が地域博物館としての存在意義を示すために、調査・研究のあり方を検討する必要に迫られている。

特別展に関する調査

毎年秋に開催される特別展は、当館が最も力を入れている事業であり、特別展図録はこの調査成果の集大成とも言える。

平成21年度の特別展は、飯能市域で出土した縄文時代中期の考古資料が対象となる展示であった。従

って事前の調査は、飯能市教育委員会、もしくは飯能市遺跡調査会で刊行済みの発掘調査報告書を用いた調査成果の把握から始まり、その後、資料の選別・観察を行なった。

古文書詳細調査

飯能市教育委員会では、平成16年度より平成21年度にかけて古文書所在確認調査を実施した。その結果、新たな史料群の存在が明らかとなってきたが、この調査がきっかけとなって当館に史料を寄贈したり、寄託することを希望する家も多くなってきている。新たに収蔵するに至った資料の整理は喫緊の課題である。

また、当館で既に収蔵している史料についても、展示会に関するものの調査を除けば、史料集を刊行するなど収蔵資料の価値を高める活動はほとんど

行うことができていない。

こうした課題に向け、当館では平成19年度より当館で収蔵している古文書の翻刻や内容の調査、特定のテーマに関係する史料の所在調査を行っていくこととした。今年度は、昨年度(平成20年度)に引き続き埼玉県あるいは多摩地域以外に所在する飯能戦争関係史料の所在調査を実施した。その結果、福岡県立図書館で所蔵している黒田家文書など飯能戦争に参加した九州諸藩の史料の中から、その関係史料を確認することができた。

昔の子どもの遊びと「紙芝居」についてのアンケート調査

当館では毎年1月から2月にかけて小学3年生見学対応を実施しているが、本アンケート調査は、小学3年生見学対応のプログラムの一部となっている、「昔の子どもの遊びと紙芝居の解説」の内容を充実させるため、市民学芸員により企画された。

アンケート調査の対象者は、飯能市域に居住する50歳以上の中高齢者で、調査方法は市内各公民館の窓口にてアンケート用紙を配布・回収する方法がとら

れた。

調査結果は市民学芸員紙芝居部会のメンバーにより集計され、調査結果報告書にまとめられた。

アンケート調査により得られたデータは、小学3年生見学対応中の「昔の子どもの遊びと紙芝居の解説」に反映され、解説・展示内容の改善に役立てられた。また、報告書の構成・体裁を編集し、次に触れる『飯能市郷土館研究紀要』第5号に掲載した。

研究紀要の刊行

平成12年3月、当館が博物館法に基づく登録博物館になった際に、博物館の機能の充実を図る方策の一つとして研究紀要の刊行を計画し、平成12年度に第1号を刊行した。その後、原則として隔年で刊行しており、平成21年度には第5号を刊行した。

研究紀要は地域の歴史・民俗・考古に関する調査・研究の成果をまとめたもので、執筆は当館学芸員のほか、教育委員会生涯学習課文化財担当職員や、当館の収蔵資料を調査している研究者などにも依頼している。また、第5号においては先述したとおり、市民学芸員も執筆している。

第5号の内容は次のとおりである。

飯能市郷土館研究紀要 第5号

発行日 平成22年3月31日

内 容 「昔の子どもの遊び」と「紙芝居」についてのアンケート調査結果報告

市民学芸員 紙芝居部会

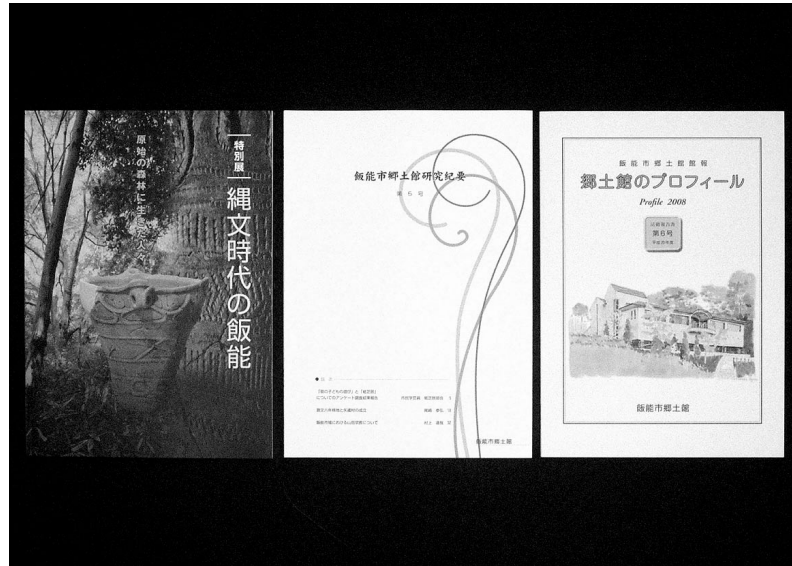
寛文八年検地と矢嵐村の成立

尾崎泰弘(当館学芸員)

飯能市域における山岳宗教について

村上達哉(当館学芸員)

刊行図書



○特別展図録
「縄文時代の飯能
—原始の森林に生きた人々—
A 4判56頁
(平成21年10月18日発行)

○「飯能市郷土館研究紀要」
第5号 A 4判54頁
(平成22年3月31日発行)

○館報「郷土館のプロフィール」第6号
A 4判60頁
(平成22年3月31日発行)

郷土館だより

「郷土館だより」は、郷土館の事業を知っていただくための広報誌で平成13年5月1日に創刊号を発行した。その後、都合により回数が減った年もあるが、年4回、季節ごとに発行することを目標にしている。

費用の点から、全戸配布ではなく各戸回覧で見ていただくことにしており、配布にあたっては、自治会・町内会の皆様にご理解とご協力をいただいている。

平成21年度の郷土館だより

号数	発行日	内容
第26号(初夏号)	平成21年6月15日	第11回定点撮影プロジェクト写真展好評開催中/第5回「マイ・コレ。」(案内)/小中学校社会科研究展(案内)/特別展「縄文時代の飯能」(案内)/夏休み子ども歴史教室(案内)/これまでの展示/「名栗の歴史」下巻の刊行の遅延について/刊行物のお知らせ
第27号(初冬号)	平成21年11月15日	特別展「縄文時代の飯能」好評開催中/「むかしのくらし—民家の台所再現—」(案内)/これまでの展示・事業/市民学芸員の活動/博物館実習生の受け入れ

ホームページ

インターネットの普及に伴い、情報提供の手段としてホームページの有効性が増してきたため、当館では、平成14年10月にホームページの公開を開始した。その後、当館で更新できる体制を整え、内容を検討し、平成19年4月8日から全面更新した。その内容や考え方のうち、特に留意したのは次の4点である。

郷土館に関する案内を充実させる。

地域情報や歴史情報を掲載し、一般の人が調べられるホームページとする。

飯能市のホームページの範囲内で構成する。

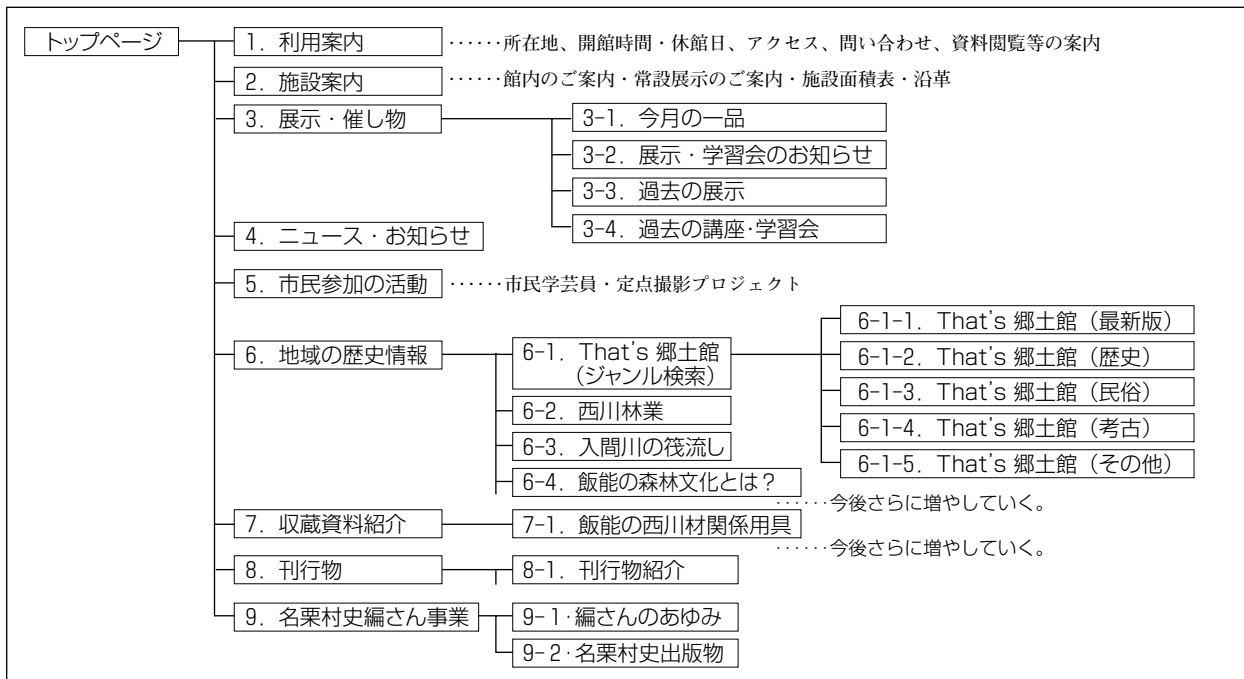
更新しやすいページ構成にする。

郷土館ホームページアクセス件数

月	件数	昨年度までの平均
4月	416	419.7
5月	621	350.0
6月	606	443.0
7月	534	408.3
8月	674	458.3
9月	571	483.7
10月	1070	294.0
11月	772	294.5
12月	507	307.7
1月	497	359.7
2月	535	461.0
3月	491	522.7
合計	7,294	4,802.6
1ヶ月平均	607.8	400.2



●ホームページ構成図



<http://www.city.hanno.saitama.jp/kyodo/>

名栗村史編さん事業

1 経緯

名栗村史編さん事業は、平成2年度に名栗村村制施行100周年記念事業として、「新・名栗村史」編さんを目指した資料調査実施を決定したことに始まる。その後、平成9年度には名栗村史資料調査準備委員会が発足、翌10年4月に名栗村史資料調査員が委嘱され、平成12年3月に名栗村史研究『那栗郷』及び名栗村史料目録が刊行された。そして平成14年度の名栗村史編さん委員会の設置、平成15年4月の名栗村史編さん室の開設を経て、『名栗の民俗(上)』が完成したのは、閉村間際の平成16年11月のことであった。なお、名栗村時代には名栗村史研究『那栗郷』4冊、史料目録6冊が発行されている。

以上のような経緯をたどった当該事業は、平成17年1月の飯能市との合併により当館が所掌するところとなった。その後、平成19年度末までに名栗村史研究『那栗郷』2冊、史料目録4冊、本編である『名栗の民俗(下)』・『名栗の歴史(上)』を刊行したところである。

当初は平成19年度事業完了の予定だったが、『名栗の歴史(下)』の発行には至らず、翌年度まで延長した。しかし、編集・校正の過程で編集委員長が体調をくずし編集作業が行えない状態となってしまった。このため、事業をさらに1年延期することとした。

平成21年度には編集委員長の体調も回復し、平成22年3月に最後の本編である『名栗の歴史(下)』を発行し、約20年にわたる事業を完了した。

2 事業の特徴

名栗地域の文化と歴史は最終的に4冊の本編にまとめられたが、これは編集委員と名栗地域住民との協働によってできあがったものとも言える。

編集委員は、旧名栗村の時から、毎年の文化祭で調査成果を展示したり、毎月の「広報なぐり」に「なぐりのあゆみ」を掲載するなど、住民に事業の内容と様子を多くの機会で紹介してきた。さらに、毎年古文書講座を開催し、この受講者の中から調査協力員や整理作業に携わる人も生まれてきた。史料の収集だけでなく、民俗調査での話者の紹介などには多くの方々に協力いただいた。この結果、最終的には67件、合計2万8千点を超える史料が集まった。このような多数の史料が収集できたのは、住民の事業への関心と理解が高まり、多くの方々の協力が得られた結果と言える。

多数の具体的な史料を元に記述された本編は、現在の名栗地域がいかなる歴史の積み重ねの上に成立しているのか、かつて森や耕地と村人が密接に関わっていた時代に形成された文化はいかなるものかを明らかにしている。これは、今後の地域づくりを考える際に、住民が共有すべき礎^{いしづえ}となることだろう。



刊行された4冊の本編

郷土館の運営に関する事項を調査し、審議するため郷土館協議会がおかれている(飯能市郷土館条例第10条)。協議会は市議会議員、学校教育の関係者、社会教育の関係者、学識経験者から成る10人以内の委員によって構成され、任期は2年である。

委員名簿

任期：平成20年7月1日～平成22年6月30日

職名	氏名	役職	備考
会長	村野みどり	おはなしの会「なんじゃもんじゃ」代表	
副会長	柳澤 陽子	文芸飯能選考委員	
委員	小見山 進	市議会議員	平成21年5月4日退任
委員	石井 健祐	市議会議員	平成21年5月20日就任
委員	中村恵太郎	加治東小学校長	平成21年3月31日退任
委員	白石 守	東吾野小学校長	平成21年4月1日就任
委員	黒澤 秀美	吾野中学校長	
委員	森泉 忠雄	飯能絵画連盟	
委員	田島 哲也	林業家	
委員	波多野宏之	駿河台大学副学長	
委員	保坂 裕興	学習院大学教授	
委員	加藤 栄子	定点撮影プロジェクト会員	

開催状況

第1回

平成21年7月1日(水) 午前10時～

(議事)

- ・平成20年度事業の経過について
- ・平成21年度事業の経過について
- ・平成21年度事業の今後の予定について

第3回

平成22年3月24日(水) 午後2時～

(議事)

- ・民家の台所再現、小学3年生見学対応について
- ・平成21年度事業経過について
- ・平成22年度事業計画(案)について

第2回

平成21年12月18日(水) 午前10時～

(議事)

- ・平成21年度事業の経過及び今後の予定について
- ・特別展「縄文時代の飯能」について
- ・第2次「マイ・コレ。」について
- ・平成22年度事業について

博物館実習

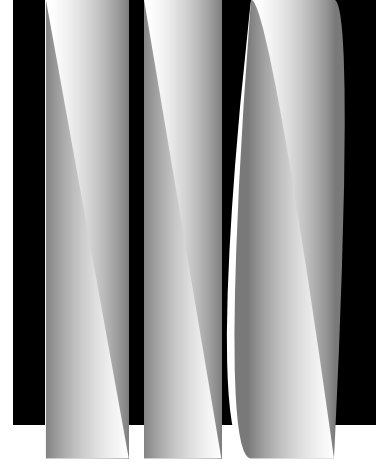
当館では、市民サービスの一環として、大学における学芸員養成課程の博物館実習を受け入れている。
原則として、市民とみなされる世帯に属する子女で、博物館学概論の単位を修得した学生がその対象となる。

実施期間 平成21年7月28日(火)～8月9日(日) 12日間

実習生名 島垣実郁(明星大学)・佐藤 唯(共立女子大学)・能渡久美(駿河台大学)

	実施日	曜日	午 前	午 後
1	7月28日	火	オリエンテーション・館内案内(柳戸)	夏休み子ども歴史教室準備(柳戸)
2	7月29日	水	夏休み子ども歴史教室準備(柳戸)	
3	7月30日	木	夏休み子どもクラブ企画案作成(尾崎)	収蔵資料の整理(尾崎)
4	7月31日	金	夏休み子どもクラブ「竹の水鉄砲で遊ぼう」準備(尾崎)	
5	8月1日	土	夏休み子ども歴史教室準備(柳戸)	
6	8月2日	日	「竹の水鉄砲で遊ぼう」運営(尾崎)	夏休み子ども歴史教室準備(尾崎)
7	8月4日	火	夏休み子ども歴史教室準備(柳戸)	
8	8月5日	水	夏休み子ども歴史教室運営(柳戸)	夏休み子ども歴史教室準備(柳戸)
9	8月6日	木	夏休み子ども歴史教室運営(柳戸)	夏休み子ども歴史教室片付け・反省(柳戸)
10	8月7日	金	夏休み子ども歴史教室片付け(村上)	考古資料の梱包・運搬(村上)
11	8月8日	土	小学生対象の地域学習について(尾崎)	資料(刀剣)の取扱い(尾崎)
12	8月9日	日	考古資料の取扱いと写真撮影(村上)	郷土館の課題について(まとめ)(柳戸)

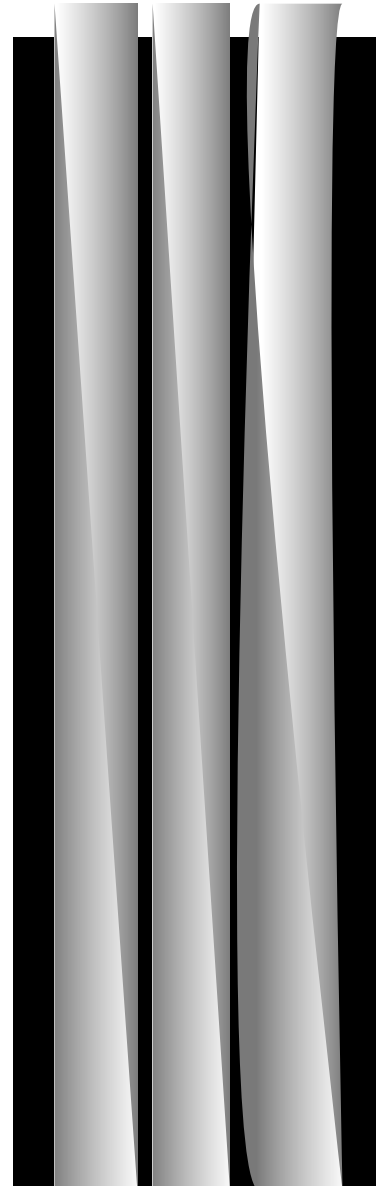
() は指導者名



第 3 章

…… Chapter 3 ……

【各種データ】



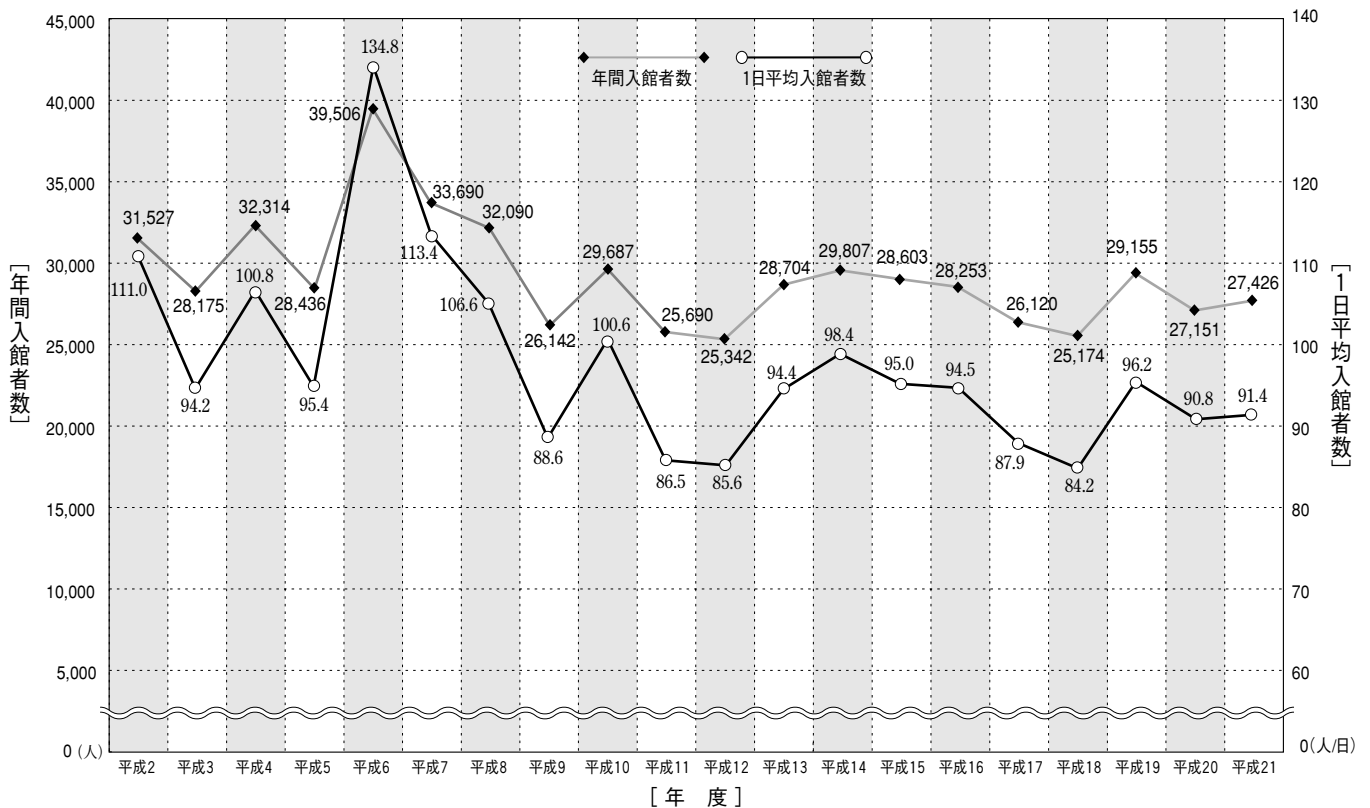
入館者数

月	平成19年度			平成20年度			平成21年度		
	開館日数	合計人数	1日平均	開館日数	合計人数	1日平均	開館日数	合計人数	1日平均
4	26	2,525	97.1	25	2,271	90.8	25	2,379	95.2
5	26	2,388	91.8	27	1,851	68.6	27	1,895	70.2
6	23	2,211	96.1	25	1,694	67.8	25	2,009	80.4
7	26	1,834	70.5	24	1,773	73.9	23	2,102	91.4
8	27	2,308	85.5	27	2,203	81.6	26	2,633	101.3
9	26	2,034	78.2	24	1,899	79.1	26	2,311	88.9
10	26	2,458	94.5	27	2,342	86.7	27	2,428	89.9
11	26	3,051	117.3	26	3,391	130.4	24	2,514	104.8
12	23	1,929	83.9	22	1,724	78.4	23	1,636	71.1
1	23	2,470	107.4	23	2,716	118.1	24	2,592	108.0
2	25	2,470	98.8	23	2,727	118.6	23	2,520	109.6
3	26	3,477	133.7	26	2,560	98.5	27	2,407	89.1
合計	303	29,155	96.2	299	27,151	90.8	300	27,426	91.4

開館(平成2年度)から平成21年度末までの

総入館者数	582,992 人
開館日数	5,957 日
1年平均入館者数	29,149.6 人/年
1日平均入館者数	97.9 人/日

〈入館者数の推移〉



歳出予算

(単位：明記したものの以外は千円)

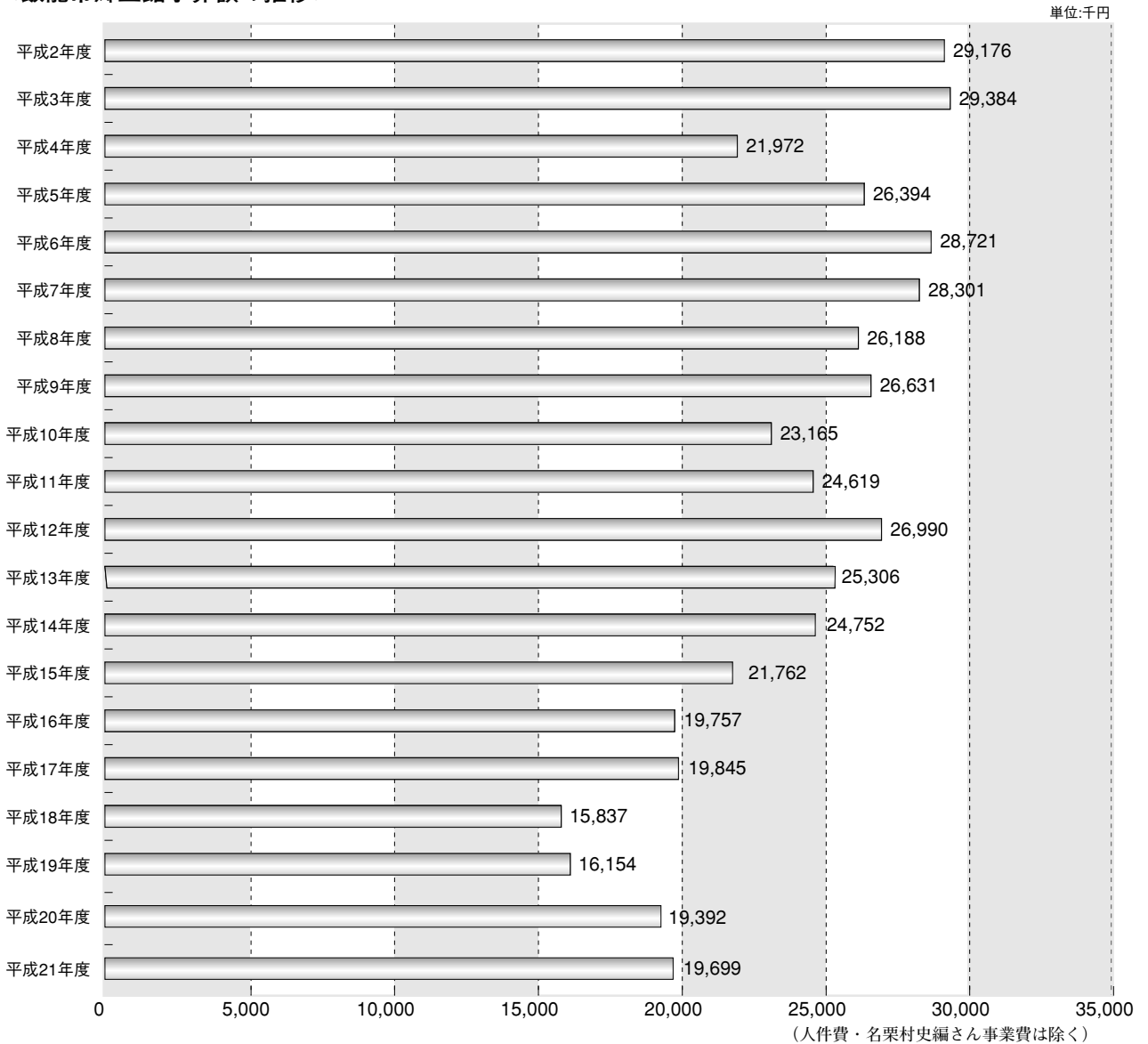
事業名 年度	郷土館 事務費	展示・学習会 開催事業	資料収集・ 保存事業	調査・ 研究事業	郷土館 施設管理事業	郷土館事業費 小計	名栗村史 編さん事業費	郷土館費 合計	A (%)	B (円)	C (円)
19	1,655	3,672	2,618	576	7,633	16,154	17,424	33,578	0.07%	192.7円	554.1円
	10.2%	22.7%	16.2%	3.6%	47.3%						
20	3,358	3,896	4,063	200	7,875	19,392	2,409 ※平成19年度 より繰越	21,801	0.08%	232.0円	714.2円
	17.3%	20.1%	21.0%	1.0%	40.6%						
21	3,142	3,715	2,973	668	9,201	19,699	1,636 ※平成20年度 より事故繰越	21,335	0.08%	236.5円	718.3円
	16.0%	18.9%	15.1%	3.4%	46.7%						

(当初予算。ただし人件費は除く)

郷土館事業費（人件費・名栗村史編さん事業費除く）の

- A：飯能市一般会計当初予算に対する比率
- B：市民1人あたり（当該年度の4月1日現在の人口）の金額
- C：入館者1人あたりの金額

＜飯能市郷土館予算額の推移＞



図書資料寄贈機関

埼玉県

上尾市教育委員会
朝霞市博物館
伊奈町
入間市博物館
入間地区社会教育協議会
大井町遺跡調査会
春日部市教育委員会
川口市立科学館
川越市教育委員会
川越市立博物館
騎西町遺跡調査会
行田市
行田市郷土博物館
熊谷市石原古墳群調査会
熊谷市教育委員会
熊谷市立熊谷図書館
栗橋町教育委員会
埼玉県
(財)埼玉県教育公務員共済会
埼玉県地域史料保存活用連絡協議会
埼玉県平和資料館
(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
埼玉県立川の博物館
埼玉県立さきたま史跡の博物館
埼玉県立自然の博物館
埼玉県立文書館
埼玉県立嵐山史跡の博物館
埼玉県立歴史と民俗の博物館
埼玉考古学会
さいたま市立浦和博物館
さいたま市立博物館
さいたま文学館
幸手市教育委員会
白岡町遺跡調査会
白岡町教育委員会
駿河台大学
駿河台大学野村ゼミナール2009年4年生
租税大学校税務情報センター租税史料館
第21回全国生涯学習フェスティバル実行委員会
中世文化財を活用した地域連携事業実行委員会
鶴ヶ島市遺跡調査会
鶴ヶ島市教育委員会
鉄道博物館
戸田市立郷土博物館
鳩ヶ谷市立郷土資料館
羽生市教育委員会
飯能絵画連盟
飯能市
飯能市教育委員会
飯能市子ども会育成会連絡協議会

(社)飯能市社会福祉協議会
飯能市上下水道部
飯能市情報教育推進委員会
飯能市人権教育推進協議会
飯能市総務部市民税課
飯能市総務部庶務課
飯能市租税教育推進協議会
飯能市立図書館
飯能地区体育協会
日高市教育委員会
深谷市郷土文化会
富士見市立難波田城資料館
富士見市立水子貝塚資料館
ふじみ野市上福岡歴史民俗資料館
ふじみ野市教育委員会
南高麗郷土史の会
宮代町教育委員会
宮代町郷土資料館
三芳町教育委員会
毛呂山町教育委員会
立正大学熊谷校地遺跡調査室
立正大学博物館
鷲宮町立郷土資料館
蕨市立歴史民俗資料館

東京都

ICアセット(株)
(株)アーバンコーポレーション
新井合資会社
荒川区教育委員会
板橋区教育委員会
板橋区立郷土資料館
一枚の絵(株)
学習院大学史料館
鹿島建設(株)
学校法人東京女子医科大学
葛飾区郷土と天文の博物館
加藤建設(株)文化調査部
北区教育委員会
共和開発(株)
共同保存図書館・多摩
清瀬市郷土博物館
くにたち郷土文化館
江東区教育委員会
国際基督教大学博物館湯浅八郎記念館
(株)コスモスイニシア
(財)渋沢栄一記念財団
渋沢史料館
(株)四門文化財研究室
杉並区立郷土博物館

住友不動産株式会社
 税務大学校全国歴史資料保存利用機関連絡協議会
 調査・研究委員会
 大成エンジニアリング(株)埋蔵文化財調査部
 台東区教育委員会
 台東区教育委員会生涯学習課文化財担当
 (財)たましん地域文化財団
 たましん歴史・美術館歴史資料室
 中央区教育委員会
 中央区立郷土天文台
 テイクイトレード(株)埋蔵文化財事業部
 東急不動産(株)
 東京都江戸東京博物館
 東京都三多摩公立博物館協議会
 東京都美術館
 豊島区
 豊島区教育委員会
 豊島区立郷土資料館
 日本工業大学工業技術博物館
 日本赤十字社
 (財)日本博物館協会
 野村不動産(株)
 (株)長谷コーポレーション
 八王子市郷土資料館
 パルテノン多摩歴史ミュージアム
 日野市
 (財)府中文化振興財団 府中市郷土の森博物館
 福生市教育委員会
 (株)文化環境研究所
 文化庁文化財部美術学芸課
 町田市立自由民権史料館
 町田市立博物館
 瑞穂町教育委員会
 (株)三菱総合研究所
 港区教育委員会
 港区立港郷土資料館
 武蔵大学学芸員課程
 武蔵村山市教育委員会
 明治大学学芸員養成課程
 明治大学博物館
 六本木六丁目地区市街地再開発組合
 早稲田大学會津八一記念博物館

その他

(財)アイヌ文化振興・研究推進機構
 赤穂市立歴史博物館
 稲敷市立歴史民俗資料館
 岩宿博物館
 各務原市歴史民俗資料館
 笠懸野岩宿文化資料館
 上総古文書の会
 神奈川大学
 神奈川大学日本常民文化研究所
 かみつけの里博物館
 菊川市教育委員会
 近畿民具学会
 群馬県立歴史博物館
 国立歴史民俗博物館
 相模原市立博物館
 寒川町
 塩尻市立平出博物館
 下関市立考古博物館
 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
 高崎市観音塚考古資料館
 高岡市万葉歴史館
 田原市教育委員会
 田原市教育委員会文化振興課
 田原市博物館
 千葉県文書館
 土浦市立博物館
 津山郷土博物館
 栃木県教育委員会
 栃木県立文書館
 豊田市民芸館
 長野市教育委員会文化財課
 流山市教育委員会
 野田市郷土博物館
 秦野市教育委員会
 平塚市博物館
 北海道立北方民族博物館
 松代文化施設等管理事務所
 松戸市立博物館
 三重大学人文学部考古学・日本史研究室
 横浜開港資料館
 立命館大学国際平和ミュージアム
 歴史学と博物館のあり方を考える会
 社会福祉法人三篠会

職員

館長 新井 孝治
 主幹(学芸員) 柳戸 信吾
 主査(学芸員) 尾崎 泰弘
 学芸員 村上 達哉

臨時(資料整理・展示準備)
 石田 朋子 入子美佐子
 臨時(事務) 加藤 緑
 臨時(清掃) 白石 敏之

飯能市郷土館条例

平成元年12月27日 条例第33号

(設置)

第1条 郷土の歴史、民俗及び考古に関する資料(以下「資料」という。)の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、これらの活用を図り、もって市民の郷土愛と文化の向上に寄与するため、飯能市郷土館(以下「郷土館」という。)を飯能市大字飯能258番地の1に設置する。

(業務)

第2条 郷土館は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 資料の収集、整理及び保存に関すること。
- (2) 資料の調査及び研究に関すること。
- (3) 資料の展示及び利用に関すること。
- (4) 資料についての専門的な知識の啓発及び普及に関すること。
- (5) その他郷土館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。

(管理)

第3条 郷土館は、飯能市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が管理する。

(職員)

第4条 郷土館に、館長その他必要な職員を置く。

(休館日)

第5条 郷土館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日(この日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)である場合を除く。)
- (2) 休日の翌日(この日が日曜日又は休日である場合を除く。)
- (3) 1月1日から同月4日まで及び12月28日から同月31日まで

2 教育委員会は、必要があると認めるときは、前項に規定する休館日のほか臨時に休館し、又は休館日に開館することができる。

(利用時間)

第6条 郷土館を利用することができる時間は、午前9時から午後5時までとする。ただし、教育委員会が必要があると認めるときは、これを変更することができる。

(利用の制限)

第7条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、郷土館の利用を制限することができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) その他郷土館の管理上支障があると認められるとき。

(使用料)

第8条 郷土館の使用料は、無料とする。

(損害賠償)

第9条 郷土館の利用者は、自己の責めに帰すべき

理由により、郷土館の施設、設備及び資料を損傷し、又は滅失したときは、これを修理し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、教育委員会がやむを得ない理由があると認めるときは、その全部又は一部を免除することができる。

(郷土館協議会)

第10条 郷土館の運営に関する事項を調査し、及び審議するため、飯能市郷土館協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(協議会の組織)

第11条 協議会は、委員10人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が任命する。

- (1) 市議会議員
- (2) 学校教育の関係者
- (3) 社会教育の関係者
- (4) 学識経験者

(委員の任期)

第12条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長及び副会長)

第13条 協議会に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(協議会の会議)

第14条 協議会は、会長が招集し、会議の議長となる。

2 協議会は、委員の2分の1以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第15条 協議会の庶務は、郷土館において処理する。

(委任)

第16条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成2年4月1日から施行する。
(飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)
- 2 飯能市非常勤の特別職職員の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和44年条例第8号)の一部を次のように改正する。

[次のよう]略

飯能市郷土館条例施行規則

平成2年3月31日 教委規則第5号

(趣旨)

第1条 この規則は、飯能市郷土館条例(平成元年条例第33号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(職員)

第2条 飯能市郷土館(以下「郷土館」という。)に館長、学芸員その他必要な職員を置く。

(職務)

第3条 館長は、上司の命を受け、郷土館の業務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、郷土館の専門的業務を処理する。

3 その他の職員は、上司の命を受け、事務に従事する。

(施設の利用及び許可)

第4条 学習研修室、特別展示室及び図書室(以下「学習室等」という。)は、郷土館の目的にそった研究会、展示会等に利用することができる。

2 学習室等を利用することができる者は、教育、学術及び地域文化の振興を目的とする個人又は団体とする。

3 学習室等(図書室を除く。)を利用しようとする者は、飯能市郷土館施設利用許可申請書(様式第1号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

4 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館施設利用許可書(様式第2号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは条件を付けることができる。

(郷土館資料の利用及び許可)

第5条 郷土館の資料(以下「資料」という。)は、学術上の研究のため、利用することができる。

2 資料を利用しようとする者は、飯能市郷土館資料利用許可申請書(様式第3号)を館長に提出し、許可を受けなければならない。

3 館長は、前項の許可をしたときは、飯能市郷土館資料利用許可書(様式第4号)を交付するものとする。ただし、必要があるときは、条件を付けることができる。

(施設、資料利用許可の取消し等)

第6条 館長は、施設及び資料の利用を許可した者が次の各号のいずれかに該当すると認められるときは、利用の条件を変更し、又は利用の許可を取

り消すことができる。

(1) 利用許可の申請に偽りがあったとき。

(2) 条例又はこの規則に違反したとき。

(資料の寄贈及び寄託)

第7条 館長は、資料の寄贈及び寄託を受けることができる。

2 資料を寄贈しようとする者は、飯能市郷土館資料寄贈申請書(様式第5号)を、資料を寄託しようとする者は、飯能市郷土館資料寄託申請書(様式第6号)を館長に提出するものとする。

3 館長は、資料を寄贈した者に対して飯能市郷土館資料受領書(様式第7号)を、資料を寄託した者に対して飯能市郷土館資料受託書(様式第8号)を交付するものとする。

4 寄託を受けた資料は、郷土館所蔵の資料と同様の取り扱いをするものとする。ただし、当該資料の館外貸出しについては、寄託者の承認を得なければならない。

5 館長は、不可抗力による寄託資料の損害に対して、その責めを負わないものとする。

(委任)

第8条 この規則に定めるもののほか必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則(平成4年教委規則第7号)

この規則は、平成5年1月1日から施行する。

附 則(平成10年教委規則第6号)

この規則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則(平成13年教委規則第5号)

この規則は、平成13年5月1日から施行する。

附 則(平成15年教委規則第9号)

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成17年教委規則第20号)

この規則は、平成18年1月1日から施行する。

様式第1号～第8号

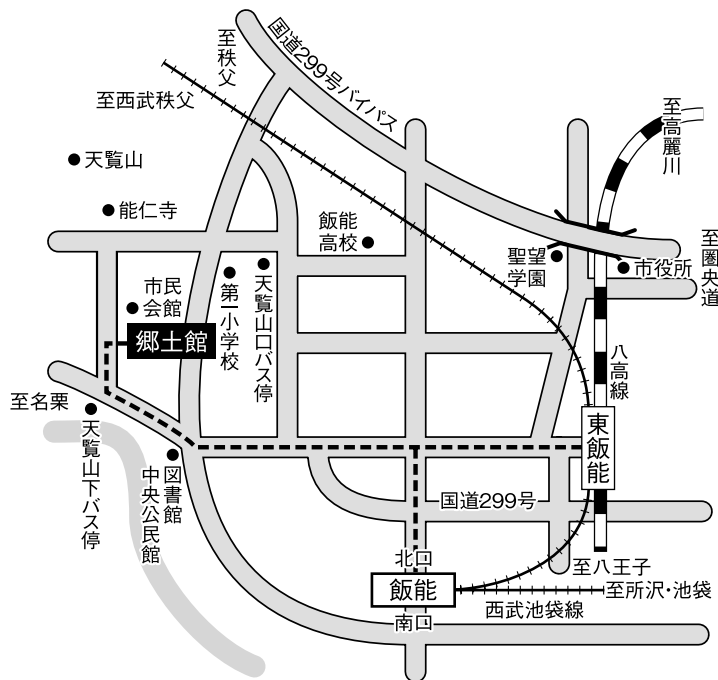
(省略)

利用案内

- 開館時間：午前9時～午後5時
- 休館日：月曜日、祝日の翌日（ただしこの日が休日の場合は開館）
年末年始(12月28日～1月4日)
- 入館料：無料

交通案内

- 最寄インター：圏央道狭山日高ICより約20分
- 最寄駅：西武池袋線 飯能駅下車 北口より徒歩約20分
または、国際興業バス 北口ロータリー2番乗り場より名栗車庫行き、
西武飯能日高行き等（名栗方面行き）「天覧山下」下車

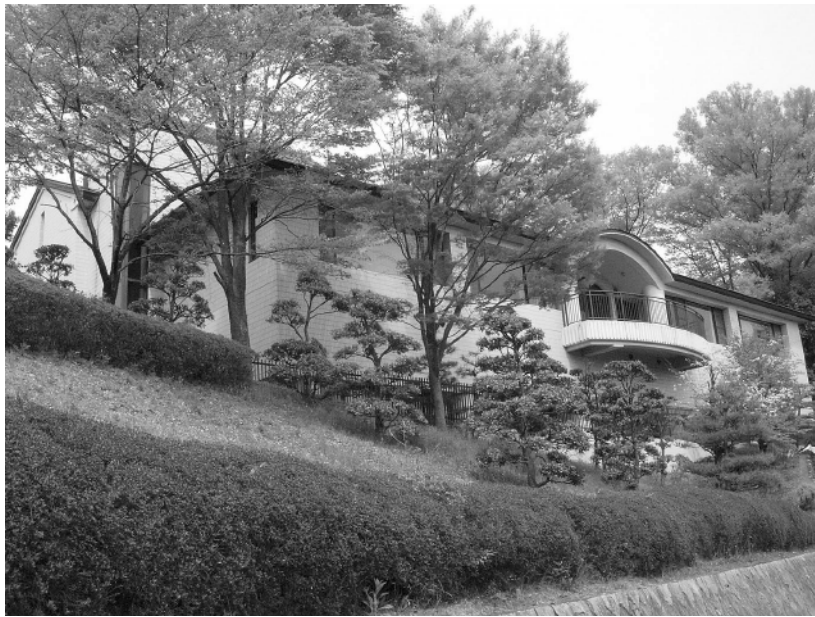


飯能市郷土館館報 郷土館のプロフィール 第7号

平成23年3月31日発行

発行 飯能市郷土館
〒357-0063 埼玉県飯能市大字飯能258-1
TEL(042)972-1414 FAX(042)972-1431
E-mail:kyodokan@city.hanno.saitama.jp
<http://www.city.hanno.saitama.jp/kyodo/>

制作 (有)クレバラー・デザインスタジオ
〒357-0044 埼玉県飯能市市川寺106-4
TEL(042)974-5260



埼玉県飯能市大字飯能258-1

TEL (042)972-1414 FAX (042)972-1431